

《人づくり分野》

生涯学習部

2016年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	社会教育総務費
				事業類型	c:その他型

I. 組織概要

組織の使命	生涯学習部の総務担当課として適切な部内運営に寄るとともに、生涯学習に関する基本方針に基づき、関係部署が事業を円滑に推進できるようにします。また、町田市固有の文化財・歴史資料の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。
所管する事務	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯学習部の総務担当課の事務等に関すること ◆生涯学習及び社会教育の基本的な方針に関すること ◆生涯学習審議会、社会教育委員及び文化財保護審議会に関すること ◆文化財の保護、調査及び収集等に関すること ◆考古資料室に関すること

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

<ul style="list-style-type: none"> ◆国や都からの補助を受けて実施している事業は、補助の継続が不可欠であることから、引き続き、補助金の確保に努めるとともに、補助率が低下した場合には、事業への影響を最小限に抑えるために事業の見直しが必要となります。 ◆文化財保護事業では、整備事業の完了後の遺跡などを多くの市民に見ていただけるような公開、活用を図っていく必要があります。 ◆考古資料室事業では、多くの市民に所蔵資料を見ていただくために、高い集客効果が見込めるアウトリーチ展示の内容を工夫する必要があります。
--

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習審議会の開催回数	回	目標	-	-	-	-	町田市生涯学習審議会の年間開催回数
		実績	7	6	6		
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	整備基本設計作成	整備実施設計作成	稲荷山遺跡整備	整備完了 (2018年度)	国指定史跡である高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡・稲荷山遺跡・八幡平遺跡)整備事業の進捗状況
		実績	整備基本設計作成	整備実施設計作成	稲荷山遺跡整備		
考古資料室の見学者数	人	目標	-	-	-	-	考古資料室年間見学者数
		実績	262	313	387		

成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯学習部の総務担当課として、関係部署との連絡・調整や部内の調整、文書の取りまとめなどを行い、部内組織の適切な運営を確保しました。 ◆社会状況の変化を踏まえた新たな生涯学習施策の構築に向けて、町田市生涯学習審議会に「今後の生涯学習施策の進め方について」諮問し、審議会を6回開催して議論を深めました。 ◆高ヶ坂石器時代遺跡については、整備検討委員会に諮りながら稲荷山、八幡平遺跡の整備工事を実施しました。このうち稲荷山遺跡は2017年3月に工事が完了し、一般公開しました。また、牢場遺跡の伐採及び見学施設建設予定箇所の再確認調査を実施しました。 ◆村野常右衛門生家については、実施設計を作成し、2017年2月から保存修理工事に着手しました。 ◆考古資料室見学者数は、企画展、イベントの開催により23%(74人)増加しました。 ◆アウトリーチ展示は4件実施し、見学者数は、主催した展示1件では展示内容の刷新により28%(260人)増加しましたが、他部署との共催により実施した3件は展示規模の縮小などにより37%(1,256人)減少し、全体では23%(996人)減少しました。
-------	---

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	106,983	99,523	96,002	△ 3,521	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	4,476	2,806	577	△ 2,229	保険料	0	0	0	0
物件費	30,957	31,547	17,835	△ 13,712	国庫支出金	4,214	5,745	12,141	6,396
うち委託料	29,525	30,625	16,999	△ 13,626	都支支出金	20,044	41,313	19,541	△ 21,772
維持補修費	26,431	16,124	40,613	24,489	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	313	383	452	69
補助費等	7,296	2,454	1,542	△ 912	その他	0	0	50	50
減価償却費	7,100	7,100	7,100	0	行政収入 小計(a)	24,571	47,441	32,184	△ 15,257
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 173,278	△ 122,983	△ 136,298	△ 13,315
賞与・退職手当引当金繰入額	19,082	13,676	5,390	△ 8,286	金融収支差額 (d)	△ 245	△ 242	△ 228	14
行政費用 小計 (b)	197,849	170,424	168,482	△ 1,942	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 173,523	△ 123,225	△ 136,526	△ 13,301
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	30,900	7,938	△ 22,962
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	30,900	7,938	△ 22,962	当期収支差額 (e)+(h)	△ 173,523	△ 92,325	△ 128,588	△ 36,263

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	人件費 96,002千円 うち時間外勤務手当 577千円	決算額の主な内訳	埋蔵文化財調査委託料(単価契約13件) 4,445千円 東京都指定史跡西谷戸横穴墓群整備工事監理業務委託 2,868千円 高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(一期)監理業務委託 1,350千円 高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡)調査委託 1,145千円 など
主な増減理由	構成人員の変更(常勤職員1名減、再任用職員1名増)及び時間外勤務減少により、3,521千円減少。	主な増減理由	市内の埋蔵文化財調査件数が4件増加したことにより、委託料が1,389千円増加。 高ヶ坂石器時代遺跡整備事業の実施設計が完了し、工事監理に移行したため、委託料が5,443千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	都支支出金
決算額の主な内訳	東京都指定史跡西谷戸横穴墓群整備工事 23,854千円 高ヶ坂石器時代遺跡整備工事(一期) 16,686千円 旧永井家住宅 自動火災報知設備(感知器)修繕 18千円 など	決算額の主な内訳	西谷戸横穴墓群整備事業費補助金 13,451千円 高ヶ坂石器時代遺跡総合活用整備事業費補助金 4,957千円 埋蔵文化財調査事業費補助金 1,113千円 など
主な増減理由	2015年度に引き続き西谷戸横穴墓群の整備工事を実施し、高ヶ坂石器時代遺跡の整備工事に着手したため、前年度より24,460千円増加。	主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡整備事業の実施設計が完了し、工事監理に移行したため、3,135千円増加。 旧荻野家住宅保存修理工事が完了したため、26,119千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		5,780	5,691	△ 89	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	1,102	1,115	13	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	717,369	710,269	△ 7,100		賞与引当金	4,678	4,576	△ 102
		土地	635,475	635,475	0		その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	240,675	240,675	0	固定負債		106,735	118,001	11,266
		建物減価償却累計額	△ 158,781	△ 165,881	△ 7,100	地方債		18,210	35,695	17,485
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	88,525	82,306	△ 6,219
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益		0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
		土地	0	0	0		負債の部合計	112,515	123,692	11,177
		工作物(取得価額)	0	0	0	純資産		604,854	615,553	10,699
工作物減価償却累計額		0	0	0		純資産の部合計	604,854	615,553	10,699	
無形固定資産		0	0	0	負債及び純資産の部合計		717,369	739,245	21,876	
	建設仮勘定	0	28,976	28,976						
	その他の固定資産	0	0	0						
	資産の部合計	717,369	739,245	21,876						

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	建設仮勘定	勘定科目	地方債(固定負債)
決算額の主な内訳	村野常右衛門生家 91,113千円 旧永井家住宅 14,461千円 武相荘(旧白洲邸)倉庫 3,960千円 など	決算額の主な内訳	村野常右衛門生家保存修理工事 15,536千円 村野常右衛門生家保存修理工事実施設計業務委託 5,702千円 など	決算額の主な内訳	文化財施設改修事業債(村野常右衛門復旧整備事業) 15,900千円 文化財施設整備事業債(高ヶ坂遺跡公園整備事業) 2,700千円 など
主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が7,100千円減少。	主な増減理由	村野常右衛門生家復旧整備工事に着手したため、工事費と実施設計業務委託料の合計21,038千円を建設仮勘定に計上。	主な増減理由	村野常右衛門生家復旧整備事業等への市債充当により、18,600千円増加。市債の元金及び利子償還分を流動負債に振り替えたため、1,115千円減少。

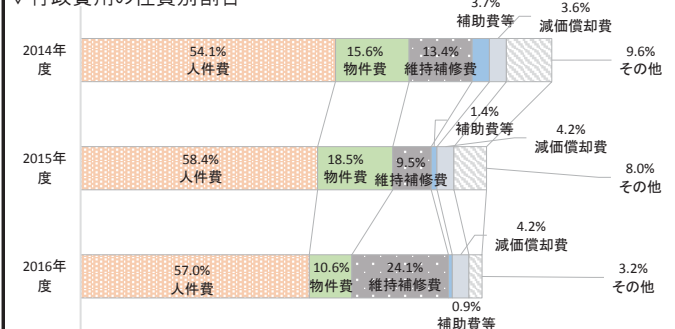
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	32,184	社会資本整備等投資活動収入	860	財務活動収入	18,600
行政サービス活動支出	167,932	社会資本整備等投資活動支出	21,038	財務活動支出	1,102
行政サービス活動収支差額(a)	△ 135,748	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 20,178	財務活動収支差額(c)	17,498
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 138,428
				一般財源充当調整額	138,428

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI.個別分析

▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用		嘱託	臨時	2016 合計	2015 合計
		フルタイム	(短時間)				
生涯学習審議会事務	0.7					0.7	0.9
生涯学習総務課管理事務	3.5					3.5	3.4
文化財保護事務	4.6		0.7			5.3	5.4
考古資料室管理事務	0.2		0.3			0.5	0.3
						0.0	0.0
2016年度 歳出目 合計	9.0	0.0	1.0	0.0	0.0	10.0	10.0
2015年度 歳出目 合計	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	

VII.総括

①成果および財務の分析

◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、国、都から補助(対象経費の75%)を受けていますが、補助金の交付額が低下したため整備内容を変更して稲荷山、八幡平遺跡の整備工事を行いました。このうち稲荷山遺跡は工事が完了して2017年3月から一般公開を行いました。
 ◆文化財普及事業では、歴史講座、イベントなど27件(主催7件、共催13件、職員派遣7件)に関わり、延べ参加人数は5,348人でした。歴史講座、イベント開催数は2015年度より8件増加し、保存修理が完了した文化財を積極的に公開しました。
 ◆2016年度は、考古資料室における企画展やイベントの開催、主催したアウトリーチ展示の内容刷新について重点的に取り組み、考古資料室見学者数は23%増加し、主催したアウトリーチ展示も見学者数が28%増加しました。その一方で、他部署との共催により実施した展示においては、規模や期間などが縮小したため、アウトリーチ展示全体では、見学者が23%減少しました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、国、都から補助を受けており、事業を継続するために引き続き補助金の確保に努めます。また、今後も補助率が低下した場合には、事業への影響を最低限に抑え、一般公開できる範囲を可能な限り早く確保できる代替案が必要となります。
 ◆アウトリーチ展示は、見学者数が減少したことを受けて、実施場所・内容を検討し、より集客効果が高い企画の構成にする必要があります。

2016年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
----	-------	------	---------

歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	文化財保護事業	事業類型	4:その他型
------	---------	-------	---------	------	--------

I. 事業概要

事業目的	町田市固有の文化財・歴史資料の保護・維持・管理に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようにします。				
基本情報	根拠法令等 文化財保護法、東京都文化財保護条例、町田市文化財保護条例及び同施行規則、町田市文化財保護事業費補助金交付要綱				
基本情報	高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	2014年度	2015年度	2016年度	
	古民家保存事業進捗状況				

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆ 主要な事業(高ヶ坂石器時代遺跡整備事業、旧荻野家住宅保存修理事業、西谷戸横穴墓群整備事業)については、国や東京都からの補助が不可欠であり、引き続き、国および東京都と調整を行い、補助金を確保することが必要です。
- ◆ 指定史跡や指定有形文化財などの文化財保護に行政コストを投資することについて、市民の十分な理解が得られるよう、より積極的に文化財の公開、活用を推進していく必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
高ヶ坂石器時代遺跡整備事業進捗状況	-	目標	整備基本設計作成	整備実施設計作成	稲荷山遺跡整備	整備完了 (2018年度)	国指定史跡である高ヶ坂石器時代遺跡(牢場遺跡・稲荷山遺跡・八幡平遺跡)整備事業の進捗状況
		実績	整備基本設計作成	整備実施設計作成	稲荷山、八幡平遺跡整備		
古民家保存事業進捗状況	-	目標	(旧荻野家住宅)実施設計作成、保存修理工事着工	(旧荻野家住宅)保存修理工事完了	(村野家)実施設計作成、保存修理工事着工	(村野家)保存修理工事完了 (2017年度)	町田市指定有形文化財である村野家右衛門生家の保存修理事業の進捗状況
		実績	(旧荻野家住宅)実施設計作成、保存修理工事着工	(旧荻野家住宅)保存修理工事完了	(村野家)実施設計作成、保存修理工事着工		
成果の説明	◆ 高ヶ坂石器時代遺跡については、整備検討委員会に諮りながら稲荷山、八幡平遺跡の整備工事を実施しました。このうち稲荷山遺跡は2017年3月に工事が完了し、一般公開しました。また、牢場遺跡の伐採及び見学施設建設予定箇所の再確認調査を実施しました。 ◆ 村野家右衛門生家については、実施設計を作成し、2017年2月から保存修理工事に着手しました。						

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	59,295	52,767	48,993	△ 3,774	地方税	0	0	0	0
物件費	28,540	29,309	15,639	△ 13,670	国庫支出金	4,214	5,745	12,141	6,396
うち委託料	27,912	29,087	15,436	△ 13,651	都支出金	20,044	41,313	19,541	△ 21,772
維持補修費	26,431	16,098	40,558	24,460	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	313	376	445	69
補助費等	7,250	2,429	1,516	△ 913	その他	0	0	50	50
減価償却費	4,405	4,405	4,405	0	行政収入 小計(a)	24,571	47,434	32,177	△ 15,257
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 122,801	△ 62,758	△ 81,250	△ 18,492
賞与・退職手当引当金繰入額	21,451	5,184	2,316	△ 2,868	金融収支差額 (d)	△ 245	△ 242	△ 228	14
行政費用 小計 (b)	147,372	110,192	113,427	3,235	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 123,046	△ 63,000	△ 81,478	△ 18,478
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	30,900	10,135	△ 20,765
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	30,900	10,135	△ 20,765	当期収支差額 (e)+(h)	△ 123,046	△ 32,100	△ 71,343	△ 39,243

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	人件費(埋蔵文化財保護、文化財の活用・普及、史跡整備など) 48,993千円	決算額の主な内訳	市内遺跡発掘調査業務委託料(単価契約13件) 4,445千円 西谷戸横穴墓群整備工事監理委託 2,868千円 高ヶ坂遺跡整備工事監理業務委託 1,350千円 高ヶ坂石器時代遺跡(牢場)発掘調査委託料 1,145千円 など
主な増減理由	構成人員の変更(常勤職員1人減、再任用職員1人増)により、人件費が3,774千円減少。	主な増減理由	市内遺跡発掘調査における単価契約件数が4件増加したことにより、委託料が1,389千円増加。 高ヶ坂石器時代遺跡整備事業の実施設計が完了し、工事監理へ移行したため、委託料が5,443千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	都支出金
決算額の主な内訳	西谷戸横穴墓群整備工事費 23,854千円 高ヶ坂遺跡整備工事 16,686千円 旧永井家住宅 自動火災報知設備(感知器)修繕 18千円	決算額の主な内訳	西谷戸横穴墓群整備事業費補助金 13,451千円 高ヶ坂石器時代遺跡総合活用整備事業費補助金 4,957千円 埋蔵文化財調査事業費補助金 1,113千円 など
主な増減理由	西谷戸横穴墓群は、主要部の整備工事を実施したため工事費が8,311千円増加。高ヶ坂石器時代遺跡は、整備工事に着手したため工事費が16,686千円増加。	主な増減理由	高ヶ坂石器時代遺跡整備事業の実施設計が完了して工事監理へ移行し、補助対象経費が増加したため、3,135千円増加。 旧荻野家住宅保存修理工事完了により26,119千円減少。

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
		2016				
		2015				
		2014				
		2016				
		2015				
		2014				
		2016				
		2015				
		2014				

④貸借対照表

(単位:千円)

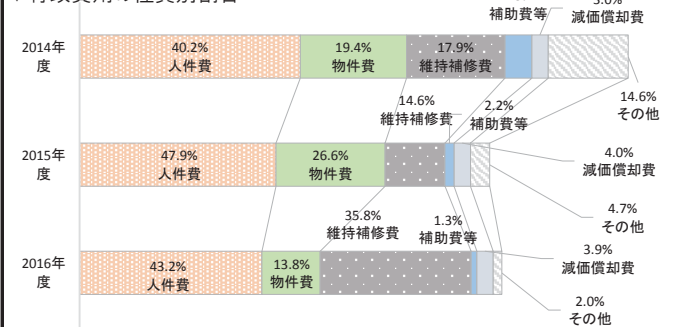
勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	3,608	3,431	△ 177	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	597,882	593,477	△ 4,405	地方債	1,102	1,115	13
		土地	580,788	580,788	0	賞与引当金	2,506	2,316	△ 190
		建物(取得価額)	109,534	109,534	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	△ 92,440	△ 96,845	△ 4,405	固定負債	65,633	77,360	11,727
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	18,210	35,695	17,485
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	47,423	41,665	△ 5,758	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		土地	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	負債の部合計	69,241	80,791	11,550
工作物減価償却累計額		0	0	0	純資産	528,641	541,662	13,021	
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	28,976	28,976	純資産の部合計	528,641	541,662	13,021		
その他の固定資産	0	0	0	負債及び純資産の部合計	597,882	622,453	24,571		
資産の部合計	597,882	622,453	24,571						

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	建設仮勘定	勘定科目	地方債(固定負債)
決算額の主な内訳	村野常右衛門生家 91,113千円 旧永井家住宅 14,461千円 武相荘(旧白洲邸)倉庫 3,960千円 など	決算額の主な内訳	村野常右衛門生家復旧整備工事 15,336千円 村野常右衛門生家復旧整備工事実施設計業務委託 5,702千円 など	決算額の主な内訳	文化財施設改修事業債(村野常右衛門復旧整備事業) 15,900千円 文化財施設整備事業債(高ヶ坂遺跡公園整備事業) 2,700千円 など
主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が4,405千円減少。	主な増減理由	村野常右衛門生家復旧整備工事に着手したため、工事費と実施設計業務委託料の合計21,038千円を建設仮勘定に計上。	主な増減理由	村野常右衛門生家復旧整備事業及び高ヶ坂遺跡公園整備事業に市債を充当したため、18,600千円増加。市債の元金及び利子償還分を流動負債に振り替えたため、1,115千円減少。

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

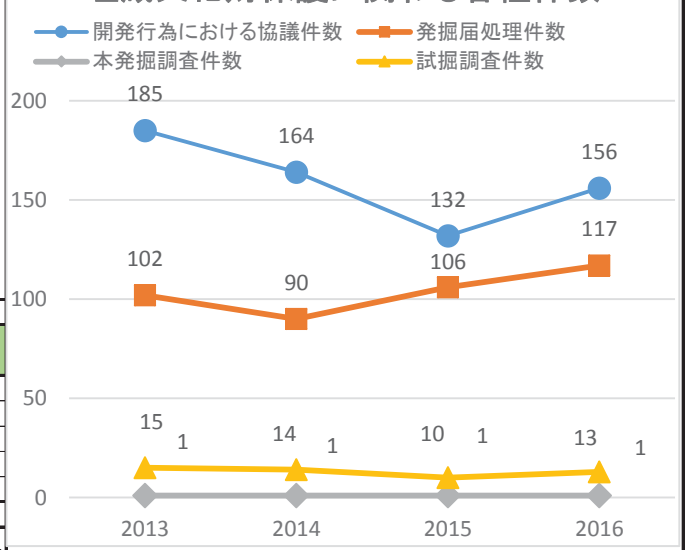


▽事業に関わる人員

業務内容	2016年度					2015年度	
	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	合計	合計
文化財保護審議会事務局事務	0.3					0.3	0.3
文化財保護事務	0.9					0.9	0.9
文化財整備保存事業	1.2					1.2	1.6
埋蔵文化財保護事業	0.9		0.6			1.5	1.3
文化財普及事業	1.3		0.1			1.4	1.3
2016年度 特定事業 合計	4.6	0.0	0.7	0.0	0.0	5.3	5.4
2015年度 特定事業 合計	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	

VI.個別分析

埋蔵文化財保護に関わる各種件数



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、国、都から補助(対象経費の75%)を受けていますが、補助金の交付額が低下したため整備内容を変更して稲荷山、八幡平遺跡の整備工事を行いました。このうち稲荷山遺跡は工事が完了して2017年3月より一般公開を行いました。
- ◆村野常右衛門生家復旧整備事業、西谷戸横穴墓群整備事業は予定どおり進捗し、西谷戸横穴墓群整備工事は2016年11月に工事が完了しました。
- ◆埋蔵文化財保護事業では、開発行為における協議件数が156件、発掘届処理件数が117件であり、このうち本発掘調査1件、試掘調査13件の指導を行いました。試掘調査における単価契約件数が2015年度より4件増加したため、埋蔵文化財保護事業に関わる事務が増加しました。
- ◆文化財普及事業では、歴史講座、イベントなど27件(主催7件、共催12件、職員派遣8件)に関わり、延べ参加人数は5,348人でした。歴史講座、イベント開催数は2015年度より8件増加し、保存修理が完了した文化財を積極的に公開しました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆高ヶ坂石器時代遺跡整備事業は、事業を継続するために国・都から補助金を確保することに努めます。また、今後も補助金の交付額が低下した場合には、事業への影響を最小限に抑え、部分的にも一般公開できるような事業計画を検討する必要があります。
- ◆文化財の整備事業へ投資している行政コストについて市民から理解を得られるよう、今後、文化財の公開・活用を積極的に行う必要があり、そのため、限られた人員で効率的に事務を執行する必要があります。

2016年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習総務課
----	-------	------	---------

歳出目名	社会教育総務費	特定事業名	考古資料室事業	事業類型	2:施設運営型
------	---------	-------	---------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	町田市固有の考古資料の収集、整理、調査、保管に努め、市民がそれらに触れられる機会・場所の提供及び情報を発信することにより、市民が郷土への理解と愛着を深められるようになります。
------	---

基本情報	根拠法令等 町田市考古資料室の公開に関する要綱							
		2014年度	2015年度	2016年度	施設の名称	町田市考古資料室		
	考古資料室の見学者数	262	313	387	建設年月日	1991年3月16日		
	アウトリーチ展示開催回数(見学者数合計)	3(5,312)	4(4,351)	4(3,355)		2014年度	2015年度	2016年度
				有形固定資産減価償却率	48.5%	50.6%	52.6%	

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆考古資料室は収蔵が主機能であるため、交通アクセスが悪い場所に立地しています。今後も広報の機会拡大に努め、見学者数増加に努めます。
 ◆アウトリーチ展示は、見学者数が減少したことを受けて、魅力的な展示を目指して内容を刷新します。同時に展示件数の増加に伴って上昇した人件費を抑えるため、効率的な業務の遂行が必要となります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
考古資料室の見学者数	人	目標	-	-	-	-	考古資料室年間見学者数
		実績	262	313	387		
アウトリーチ展示開催回数(見学者数合計)	回(人)	目標	-	-	-	-	考古資料室収蔵資料を活用し、考古資料室以外で実施した展示会の開催件数及び見学者数
		実績	3(5,312)	4(4,351)	4(3,355)		

◆考古資料室見学者数は、企画展、イベントの開催により23%(74人)増加しました。
 ◆アウトリーチ展示は4件実施し、見学者数は、主催した展示1件では展示内容の刷新により28%(260人)増加しましたが、共催した展示3件は展示規模の縮小などにより37%(1,256人)減少し、全体では23%(996人)減少しました。
 アウトリーチ展示内訳:【主催】躍動するプリミティブアートー縄文の美ー(イベントスタジオ、9日間、1,190人)、【共催】君も縄文人になろう(ひなた村、7日間、745人)、町田市登録有形文化財特別公開、26日間、933人、写真で見る忠生遺跡(忠生図書館、日間、487人)

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	2,614	3,167	2,970	△ 197	地方税	0	0	0	0
物件費	2,266	2,180	2,152	△ 28	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	1,613	1,538	1,563	25	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	26	55	29	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	0	1	1	その他	0	0	0	0
減価償却費	2,695	2,695	2,695	0	行政収入 小計(a)	0	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 7,721	△ 9,810	△ 7,977	1,833
賞与・退職手当引当金繰入額	146	1,742	104	△ 1,638	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	7,721	9,810	7,977	△ 1,833	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 7,721	△ 9,810	△ 7,977	1,833
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	888	888
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	888	888	当期収支差額 (e)+(h)	△ 7,721	△ 9,810	△ 7,089	2,721

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	人件費(展示会準備、施設見学対応、講師派遣、収蔵品・蔵書整理)2,970千円	決算額の主な内訳	施設管理委託 542千円 考古資料室除草及び低木剪定委託 506千円 光熱水費 503千円 機械警備委託 231千円 など
主な増減理由	再任用職員による業務比率が増加したため人件費が197千円減少。	主な増減理由	展示替えに伴う廃棄物処理のため、委託料が40千円増加。2016年12月より電力需給契約を変更したことにより、光熱水費が19千円減少。2015年中に大型の消耗品(はしご、撮影機材等)の購入を完了したため消耗品費が32千円減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	補助費等
決算額の主な内訳	町田市考古資料室室内蛍光灯安定器取替 44千円 町田市考古資料室女子トイレ漏水修繕 11千円	決算額の主な内訳	忠生遺跡フェスウォーキングツアー傷害保険料 1千円
主な増減理由	修繕費が老朽化した蛍光灯の安定器交換(3箇所分)及びトイレの漏水修繕実施により、前年度より29千円増加。	主な増減理由	忠生遺跡フェス関連事業でウォーキングツアーを実施したことにより、傷害保険料が必要になったため、前年度より1千円増加。

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
見学者1人当たりのコスト	人	2016	3,742	2,132	29	見学者数が減少したため、見学者1人当たりのコストは2015年度より増加しました。
		2015	4,664	2,103	718	
		2014	5,574	1,385		
		2016				
		2015				
		2014				
		2016				
		2015				
		2014				

④貸借対照表

(単位:千円)

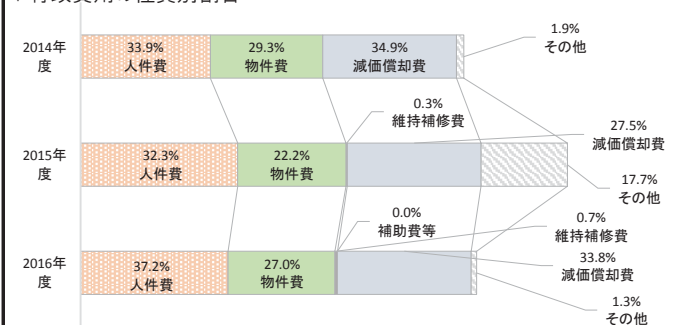
勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	154	104	△ 50
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	119,489	116,794	△ 2,695	地方債	0	0	0
	土地	54,688	54,688	0	賞与引当金	154	104	△ 50
	建物(取得価額)	131,142	131,142	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 66,341	△ 69,036	△ 2,695	固定負債	2,910	1,863	△ 1,047
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	2,910	1,863	△ 1,047
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	その他の固定資産	0	0	0	負債の部合計	3,064	1,967	△ 1,097
資産の部合計	119,489	116,794	△ 2,695	純資産	116,425	114,827	△ 1,598	
				純資産の部合計	116,425	114,827	△ 1,598	
				負債及び純資産の部合計	119,489	116,794	△ 2,695	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	考古資料室 54,688千円	決算額の主な内訳	考古資料室 131,142千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	建物の減価償却により事業用資産が2,695円減少。	主な増減理由	

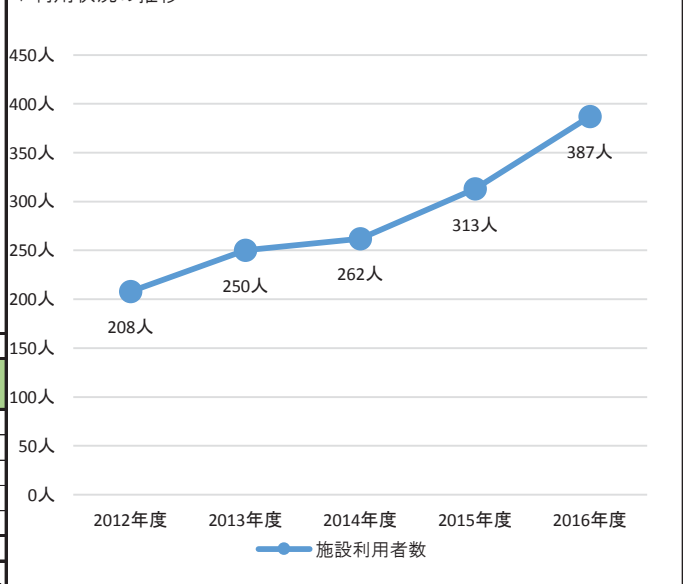
V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI.個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2016 合計	2015 合計
考古資料室管理事務	0.2		0.3			0.5	0.3
内訳						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2016年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.5	0.3
2015年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	

VII.総括

①成果および財務の分析

◆2016年度は、考古資料室における企画展やイベントの開催、主催したアウトリーチ展示の内容刷新について重点的に取り組み、事業に関わる人員は増加しましたが、考古資料室見学者数は23%増加し、主催したアウトリーチ展示も見学者数が28%増加しました。また、継続して考古資料室の広報に努めた結果、考古資料室見学者数は2011年度より毎年、増加しています。

◆アウトリーチ展示は、2015年度と同数の4件実施しましたが、共催した展示において規模や期間などが縮小した結果、見学者数が23%減少しました。その結果、見学者1人当たりのコストは2015年度より上昇しましたが、行政費用が減少したため、対前年度比のコストの上昇は2015年度より減少しました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆考古資料室見学者数は、2011年度より毎年増加していますが、展示内容の工夫や広報活動の継続を行い、今後も見学者数増加に努める必要があります。

◆アウトリーチ展示は、見学者数が減少したことを受けて、実施場所・内容を検討し、より集客効果が高い企画の構成にすることが必要です。

2016年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習総務課	歳出目名	自由民権資料館費
				事業類型	e:事業型(施設運営)

I. 組織概要

組織の使命	自由民権運動及び町田の歴史に関する資料を収集し、保管し、及び展示して、市民の利用に供し、自由民権運動と町田の歴史についての市民の理解を深めます。					
所管事務	◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の収集及び保管に関すること ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の展示に関すること ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の閲覧に関すること ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する資料の調査及び研究に関すること ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する図書等の刊行に関すること ◆自由民権運動及び町田の歴史に関する講座及びイベントの開催に関すること					
基本情報	根拠法令等					
		2014年度	2015年度	2016年度	施設の名称	町田市立自由民権資料館
	開館日数	301	301	304	建設年月日	1986年3月31日
	特別展・企画展開催回数	4	4	3		
	講座開講数	3	5	6	有形固定資産減価償却率	2014年度 40.9% 2015年度 42.9% 2016年度 44.9%

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆自由民権資料館の来館者数は、近年、着実に増加していますが、投資する行政コストに見合う十分な成果が得られるよう、引き続き、自由民権資料館の魅力の向上に努め、薬師池地域の周辺施設との連携事業などに取り組み、より一層の来館者数の増加を図ることが必要です。
 ◆2016年度は開館30周年に合わせた記念事業を実施し、市内外へ自由民権資料館をアピールするため効果的に情報発信をする必要があります。
 ◆自由民権資料館は、建設から約30年が経過しており施設等の老朽化が進んでいます。施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、財務部営繕課の中期修繕計画による施設修繕を踏まえ、施設等の維持管理を行うことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
自由民権資料館 来館者数	人	目標	(6,000)	(7,300)	(7,300)	7,500 (2018年度)	年間来館者数
		実績	7,024	7,146	6,922		
		目標					
		実績					

成果の説明

- ◆開館30周年記念事業として武相地域の民権家をテーマに自由民権運動を紹介した特別展、「五日市憲法」を紹介する企画展や、自由民権資料館開催の講座「自由民権カレッジ」卒業生が講座での成果を報告する市民協働の企画展を開催したことなどにより、多くの来館者があり、自由民権運動や町田の歴史についての市民の理解を深めることができました。
- ◆開館30周年記念事業として、研究者と市民それぞれが自由民権運動をテーマにしたシンポジウムを行うなど、自由民権資料館施設外でのイベントも開催したことにより、市民が歴史について学び考える機会を提供しました。
- ◆常設展「武相の民権／町田の民権」をリニューアルし、より分かりやすくすることで、より多くの市民が気軽に歴史に触れる機会を提供しました。

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	38,647	35,053	34,941	△ 112	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	2,676	2,330	1,858	△ 472	保険料	0	0	0	0
物件費	12,184	9,951	9,801	△ 150	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	5,907	4,770	4,636	△ 134	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,105	1,568	1,391	△ 177	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	870	1,003	1,117	114	その他	649	520	1,437	917
減価償却費	7,391	7,391	7,391	0	行政収入 小計(a)	649	520	1,437	917
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 60,363	△ 57,543	△ 55,566	1,977
賞与・退職手当引当金繰入額	815	3,097	2,362	△ 735	金融収支差額 (d)	△ 795	△ 266	0	266
行政費用 小計 (b)	61,012	58,063	57,003	△ 1,060	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 61,158	△ 57,809	△ 55,566	2,243
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	1,686	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	1,686	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 59,472	△ 57,809	△ 55,566	2,243

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	自由民権資料館電気料金(年間) 2,114千円 民権の森史跡管理業務委託料 2,016千円 自由民権資料館総合管理業務委託料 1,860千円 史料整理用中性紙封筒作成(印刷製本費) 521千円など	決算額の主な内訳	自由民権資料館浄化槽ブローア交換修繕 1,162千円 自由民権資料館エレベーターかご上ドア基盤交換修繕 194千円 凌霄館跡記念碑下地処理及び色入れ直し修繕 35千円
主な増減理由	電気料金が節電により(年間)265千円の減少。	主な増減理由	修繕箇所の減少。(2015年度10箇所実施、2016年度3箇所実施)
勘定科目	その他(行政収入)	勘定科目	補助費等
決算額の主な内訳	図書等販売収入 342千円 講習会等参加費 286千円 非常勤職員等雇用保険被保険者負担金 37千円 複写機等使用料 73千円など	決算額の主な内訳	講演会等講師謝礼 584千円 原稿執筆料 253千円 史料調査員謝礼 252千円 歴史学研究会負担金 17千円など
主な増減理由	図書等販売収入118千円、講習会等参加費78千円、寄附金700千円が増加。	主な増減理由	30周年記念事業としてシンポジウム、記念講演会等の開催により講師謝礼が126千円増加。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
来館者1人あたりのコスト	人	2016	6,922	8,235	110	2015年度と比較して、来館者数が伸びなかったため、来館者1人あたりのコストが増加しました。
		2015	7,146	8,125	△ 561	
		2014	7,024	8,686		
		2016				
		2015				
		2014				

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	862	909	47
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	548,287	540,897	△ 7,390	地方債	0	0	0
	土地	334,577	334,577	0	賞与引当金	862	909	47
	建物(取得価額)	369,527	369,527	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 155,817	△ 163,207	△ 7,390	固定負債	16,304	16,359	55
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	16,304	16,359	55
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	その他の固定資産	0	0	0	負債の部合計	17,166	17,268	102
資産の部合計	548,287	540,897	△ 7,390	純資産	531,121	523,629	△ 7,492	
				純資産の部合計	531,121	523,629	△ 7,492	
				負債及び純資産の部合計	548,287	540,897	△ 7,390	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	自由民権資料館 334,577千円	決算額の主な内訳	自由民権資料館 369,527千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の減価償却により、事業用資産が7,390千円減少。	主な増減理由	

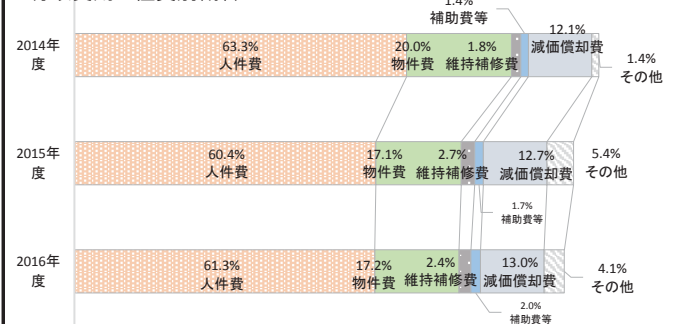
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	1,437	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	49,510	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 48,073	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 48,073
				一般財源充当調整額	48,073

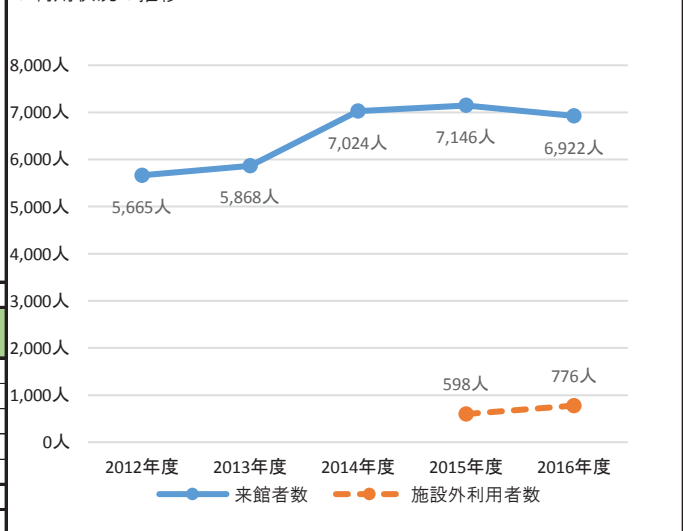
V. 財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



VI. 個別分析

▽利用状況の推移



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用		嘱託	臨時	2016 合計	2015 合計
		フルタイム	(短時間)				
資料館管理事務	0.8		0.9	0.2	0.3	2.2	2.1
資料保管事務	0.2			0.3	0.2	0.7	0.9
展示事務	0.3			1.4		1.7	1.6
図書刊行	0.2			0.3		0.5	0.5
普及事務	0.5		0.1	0.9		1.5	1.4
2016年度 歳出目 合計	2.0	0.0	1.0	3.1	0.5	6.6	6.5
2015年度 歳出目 合計	2.0	0.0	1.0	3.0	0.5	6.5	

VII. 総括

①成果および財務の分析

◆開館30周年記念事業として「五日市憲法」に関する展示や講演会、市民協働による幅広い年齢層を対象とした興味を持ちやすい展示事業等を実施したほか、自由民権運動に関するテーマでシンポジウムを開催しましたが、シンポジウムは資料館施設外での活動であったため来館者数は2015年度と比較して224人減少しました。
◆シンポジウムをはじめとした、資料館施設外での出張講座や講演会、薬師池公園での見学ツアーなどのイベントを多く実施し、施設外での利用者数は2015年度と比べ178人増加しました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆自由民権資料館の来館者数は、近年、増加傾向にありましたが、投資する行政コストに見合う十分な成果が得られるよう、引き続き、自由民権資料館の魅力の向上に努め、周辺施設との連携事業などに取り組み、より一層の資料館利用者数の増加を図ることが必要です。
- ◆自由民権運動だけでなく町田の歴史についても情報発信する必要があるため、関連施設や団体等との連携を図り、資料館施設外での講演会やイベントなどの活動も実施していく必要があります。
- ◆展示等の基礎となる史料の整理を計画的に進めるとともに、余裕がない収蔵スペースの効率的な利用について検討する必要があります。

2016年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	生涯学習センター	歳出目名	生涯学習センター費
				事業類型	a.施設所管型

I. 組織概要

組織の使命	学習の機会や場、情報の提供を通して、市民一人ひとりが、学習活動の中で自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう支援します。
所管する事務	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯学習に係る全体計画の立案及び推進に関すること ◆市民大学事業その他の生涯学習に係る講座、講演会等の実施に関すること ◆生涯学習に係る関係機関との総合調整に関すること ◆生涯学習に係る情報の集約及び市民への提供に関すること ◆生涯学習に係る相談に関すること ◆地域の教育力の向上の推進に関すること ◆施設及び設備を住民の集会その他の公共利用に供すること

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆町田センタービルの長期修繕計画に基づき、ビル全体の修繕は計画的に実施できているものの、専有部分の長期修繕計画が未策定であるため、早急に計画を策定する必要があります。
◆魅力的な講座・講演会の実施を継続して提供するため、現在行っている事業を検証し、その結果を次年度以降の事業へと反映させていく必要があります。さらに、生涯学習センター内だけでなく各地域への学習支援を充実させるため、引き続き、地域の団体や大学等と連携を図る必要があります。
◆効率的、効果的に学習の機会を提供していくためには、さがまちコンソーシアムなどの関係機関との連携や市民ボランティア等を活用しながら事業展開を図る必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
生涯学習センターの利用者数	人	目標	—	—	—	185,400	(2018年度)
		実績	182,631	177,612	174,577		
地域で実施した講座の延べ講座数	講座	目標	—	—	—	12	生涯学習センター以外の場所で地域団体との連携や地域課題の解決を目的に実施した主催講座等の延べ講座数
		実績	2	9	9	(2021年度)	
若年層が主体的に企画・運営に携わる事業数	事業	目標	(1)	(2)	(2)	5	各年度に若年層が企画・運営に携わったイベント、講座などの事業数
		実績	2	3	4	(2018年度)	

成果の説明	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯学習センター専有部分の長期修繕計画を策定しました。 ◆「町田市生涯学習推進計画」に基づき、学習情報の収集・発信、学習相談、講座・講演会等の実施、施設の貸し出しなどを行いました。施設利用の変化に伴い、施設利用者数は減少しています。 ◆生涯学習センター運営協議会にて、生涯学習センターが行う事業の現状と課題について整理・協議し、各事業の検証を行いました。 ◆市役所各部署のイベント、講座等の担当で構成する生涯学習連絡会の意見や連携実績を踏まえ、生涯学習に関する庁内連携を進めました。また、さがまちコンソーシアムの協力のもと学生団体との連携を検討している部署と学生団体との情報交換・協議の場を設けました。 ◆地域課題を地域で解決するための学習支援事業として、鶴川地区協議会主催「3水スマイルラウンジ『まなびのひろば』」において計7回の講座を実施し、さらに同協議会と共催で「アクティブシニアのあなたへ～地域デビュー大作戦」を実施しました。 ◆若年層が主体的に企画・運営に携わる学習事業として、学生活動報告会、ひきこもり当事者・経験者交流会など4事業を実施しました。
-------	--

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	156,613	164,427	157,390	△ 7,037	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	6,931	8,746	8,518	△ 228	保険料	0	0	0	0
物件費	43,738	40,785	38,540	△ 2,245	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	17,150	16,588	17,252	664	都支支出金	5,778	5,375	5,754	379
維持補修費	21,953	25,515	5,295	△ 20,220	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	11,896	12,017	11,842	△ 175
補助費等	66,640	65,190	65,212	22	その他	4,317	3,986	3,659	△ 327
減価償却費	16,688	16,688	16,688	0	行政収入 小計(a)	21,991	21,378	21,255	△ 123
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 306,346	△ 319,306	△ 274,848	44,458
賞与・退職手当引当金繰入額	22,705	28,079	12,978	△ 15,101	金融収支差額 (d)	△ 11,345	△ 10,072	△ 8,796	1,276
行政費用 小計 (b)	328,337	340,684	296,103	△ 44,581	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 317,691	△ 329,378	△ 283,644	45,734
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 317,691	△ 329,378	△ 283,644	45,734

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	生涯学習センター光熱水費 15,433千円 生涯学習センター施設貸出・管理業務委託 11,609千円 生涯学習センターホールプロジェクター購入 2,036千円 町田市立学校開放教室管理業務委託 1,762千円 陶芸スタジオ光熱水費 686千円 など	決算額の主な内訳	生涯学習センター多目的ホール映像設備修繕(配線)1,754千円 冷温水発生機内部プレートフィン溶接修繕 1,188千円 町田センタービル設備修繕負担金 824千円 生涯学習センター授乳室修繕 799千円 など
主な増減理由	区分所有する町田センタービル全体の電気使用契約を見直したことにより、生涯学習センター光熱水費が1,934千円減少。労務単価の上昇により、生涯学習センター施設貸出・管理業務委託料が231千円増加。	主な増減理由	区分所有する町田センタービルの大規模修繕がなかったことにより、維持補修費が20,220千円減少。
勘定科目	補助費等	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	町田センタービル管理費負担金 45,982千円 障がい者青年学級担当者謝礼 5,807千円 市民大学講座講師謝礼 3,723千円 さがまちコンソーシアム運営支援負担金 3,500千円 生涯学習センター運営協議会委員謝礼 830千円 など	決算額の主な内訳	公民館施設使用料 11,365千円 附属設備使用料 477千円
主な増減理由	警備・清掃委託費の増加により、町田センタービル管理費負担金が1,115千円増加。ボランティアの減少により、障がい者青年学級担当者謝礼が569千円減少。	主な増減理由	収容人数が多く使用料が高い学習室等の利用率が減少したことにより、施設使用料が159千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	157,499	157,994	495	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	151,321	151,666	345
固定資産	有形固定資産	2,261,859	2,245,597	△ 16,262		賞与引当金	6,178	6,328	150
	土地	1,706,823	1,706,823	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	778,441	778,441	0	固定負債	1,032,203	877,460	△ 154,743	
	建物減価償却累計額	△ 223,405	△ 239,667	△ 16,262		地方債	915,286	763,621	△ 151,665
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	116,917	113,839	△ 3,078
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0		負債の部合計	1,189,702	1,035,454	△ 154,248
	その他の固定資産	5,065	6,632	1,567	純資産	1,077,222	1,216,775	139,553	
資産の部合計	2,266,924	2,252,229	△ 14,695	純資産の部合計	1,077,222	1,216,775	139,553		
				負債及び純資産の部合計	2,266,924	2,252,229	△ 14,695		

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	生涯学習センター 1,706,823千円(区分所有 持分100万分の254,148)	決算額の主な内訳	生涯学習センター 746,445千円(専有部分の建物床面積合計 2,630.86㎡) 生涯学習センター陶芸スタジオ 31,996千円	決算額の主な内訳	重要物品(プロジェクター等) 3,647千円 出資金((株)町田センタービル株券) 2,985千円
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が16,262千円減少。	主な増減理由	ホール内プロジェクターの買い替えにより、資産価値が1,567千円増加。

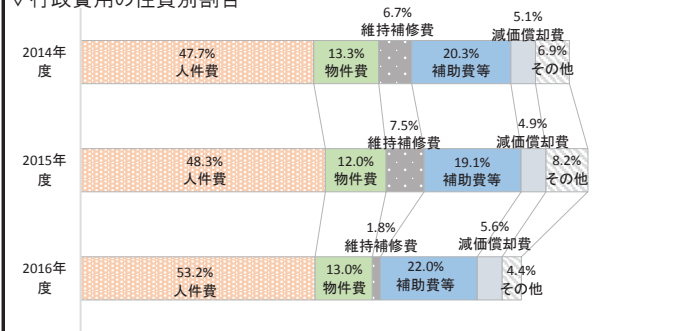
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	21,255	社会資本整備等投資活動収入	432	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	291,139	社会資本整備等投資活動支出	1,993	財務活動支出	151,321
行政サービス活動収支差額(a)	△ 269,884	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 1,561	財務活動収支差額(c)	△ 151,321
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 422,766
				一般財源充当調整額	422,766

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



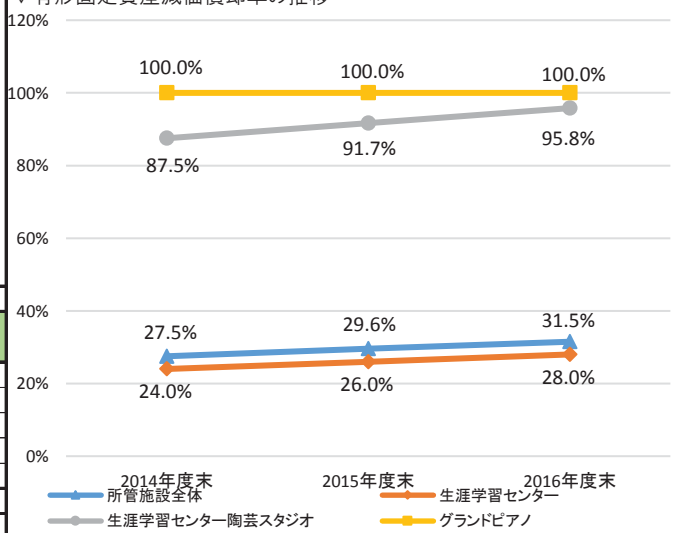
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2016 合計	2015 合計
生涯学習センター管理事務	1.8		1.0			2.8	6.9
生涯学習支援事業	3.4			0.3		3.7	4.6
生涯学習講座事業	6.7			7.7		14.4	14.9
さがまちコンソーシアム事務	0.4					0.4	0.6
課庶務・課内マネジメント事務	3.7					3.7	0.0
2016年度 歳出目 合計	16.0	0.0	1.0	8.0	0.0	25.0	27.0
2015年度 歳出目 合計	16.8	0.0	1.0	9.0	0.2	27.0	

VI.個別分析

▽有形固定資産減価償却率の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆生涯学習センターが区分所有する町田センタービルの専有部分についての長期修繕計画を策定しました。
- ◆生涯学習連絡会やさがまちコンソーシアムを活用して、市役所各部署と学生団体との情報交換・協議の場を設け、連携事業の橋渡しを行った結果、さがまち学生Clubと複数の部署との間で連携事業を実施することができました。
- ◆地域課題を地域で解決するための学習支援事業として、鶴川地区協議会や忠生図書館などと連携し、鶴川や忠生などの地域において、地域の実情に応じた講座を実施しました。
- ◆職員、嘱託職員の減員により2015年度と比較して人件費が減少しましたが、業務分担等を工夫して事業成果に繋げています。
- ◆平均施設利用率は2015年度と同様に78%となっているものの、ホールや視聴覚室など収容人数が多く使用料が高い学習室等の利用率が低下したことにより、施設使用料が減少しました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆生涯学習センターの施設利用者数については、2015年度と比較すると約3,000人減少しています。平均施設利用率は前年比横ばいであったものの、収容人数が多い学習室の利用率が低下しています。このため、施設利用者の利用実態を検証し、対策を検討する必要があります。
- ◆町田市に1館しかない生涯学習センターが、各世代及び各地域の生涯学習を支援していくためには、市役所各部署をはじめ、市民団体、自治会や地区協議会などの地域の団体、さがまちコンソーシアムなどの関係機関と幅広く連携しながら事業展開を図っていく必要があります。また、これらの事業展開を図る上では、実施事業の検証や市民の学習ニーズの把握が必要です。

◇「町田市公共施設等総合管理計画」等を踏まえ、生涯学習センターの事業や施設のあり方を検討していく必要があります。

2016年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	図書館費
				事業類型	a.施設所管型

I. 組織概要

組織の使命 市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

所管する事務

- ◆図書館運営の企画、調査、研究及び統計に関すること
- ◆図書館資料の収集、整理、閲覧及び貸出しに関すること
- ◆読書普及を目的とした各種行事に関すること
- ◆地域文庫等関係団体の育成援助に関する事及び図書館活動に係わるボランティアの育成に関すること
- ◆市外図書館との図書資料の相互貸借に関する事
- ◆移動図書館の運営に関する事及び図書館の維持管理に関する事
- ◆町田市立図書館協議会に関する事

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆町田市内の図書館は3館、予約資料受渡し施設は3か所となりました。今後は、各地域の特色に合った図書館利用者へのサービスを充実させることが必要です。
 ◆システム更改及び忠生図書館の開館により、2015年度は貸出点数及び蔵書回転率が上昇しましたが、ここ数年では減少傾向にあります。貸出点数・蔵書回転率をさらに上げるために、あらゆる分野で魅力的な図書を選定することが必要です。
 ◇所管する施設の老朽化が進んでおり、「町田市公共施設等総合管理計画」に基づいて、利用者への長期のサービスを維持する方策を検討することが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	4,470,000	4,214,000	(AV資料を含む)
		実績	3,834,668	4,307,626	4,081,358	(2019年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	3.71	3.44	貸出点数を蔵書数で除したものの(AV資料を含む) (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	3.41	3.60	3.38	(2019年度)	
		目標	-	-	-		
		実績					

成果の説明

- ◆2016年7月に市内4か所目となる成瀬コミュニティセンターでの予約資料受渡しを開始し、成瀬地域の利用者の利便性が向上しました。
- ◆事務事業の効率化を進め、時間外勤務を減少させました。
- ◆他機関・他部署と連携し、「ゼルビア/サン・ジョルディの日特集」、「シバヒロ星空観望会」等の事業を通して、幅広い層への図書館利用に関するPRを行いました。
- ◆学校図書指導員及び教諭対象の図書館研修を実施し、職場体験の中学生70名・高校生14名の受け入れや小学校・中学校・高等学校などによる図書館見学も行うとともに、学校などに訪問し、ブックトークやおはなし会を行いました。
- ◆参加者の拡大を目的に、「としょかん子どもまつり」を「としょかんまつり」に変更して実施し、まつりに合わせてPRツールとしてツイッターを開始しました。
- ◆適切な図書を選定する基準として、町田市立図書館収集方針の改訂を行いました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	877,054	840,923	823,346	△ 17,577	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	41,430	28,201	16,296	△ 11,905	保険料	0	0	0	0
物件費	419,789	300,953	298,519	△ 2,434	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	273,510	64,813	71,868	7,055	都支支出金	0	0	1,670	1,670
維持補修費	16,115	15,885	39,268	23,383	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	1,560	1,636	1,636	0
補助費等	64,788	54,991	52,867	△ 2,124	その他	15,348	6,938	6,251	△ 687
減価償却費	35,412	48,503	48,503	0	行政収入 小計(a)	16,908	8,574	9,557	983
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 1,485,991	△ 1,327,073	△ 1,317,266	9,807
賞与・退職手当引当金繰入額	89,741	74,392	64,320	△ 10,072	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	1,502,899	1,335,647	1,326,823	△ 8,824	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 1,485,991	△ 1,327,073	△ 1,317,266	9,807
特別費用 (g)	77,658	49,880	33,224	△ 16,656	特別収入 小計 (f)	409	558	223	△ 335
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 77,249	△ 49,322	△ 33,001	16,321	当期収支差額 (e)+(h)	△ 1,563,240	△ 1,376,395	△ 1,350,267	26,128

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 473,885千円 再任用職員 33,987千円 嘱託員 285,737千円 臨時職員 29,044千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 111,548千円 図書館情報システムサービス使用料 44,108千円 図書館書籍配送業務委託料 7,212千円 鶴川駅前図書館総合管理業務委託料 19,718千円 図書館MARCシステム変更対応委託料 5,389千円など
主な増減理由	事務事業の効率化を行い、時間外勤務の縮減を進めたことなどにより、17,577千円減少。	主な増減理由	図書館MARCシステム変更委託料5,389千円、成瀬コミュニティセンター予約機能追加委託料1,836千円、装備支援システム仕様変更委託料1,058千円などの増加。契約先の変更などによる光熱水費4,160千円などの減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	特別費用
決算額の主な内訳	エルムビル屋上防水改修工事負担金 11,043千円 中央図書館4階トイレ改修工事負担金 11,440千円 中央図書館シャッター危害防止修繕負担金 1,706千円 中央図書館6階書庫空調設備改修修繕 5,346千円 さるびあ図書館小荷物昇降機改修修繕 1,296千円など	決算額の主な内訳	除籍図書資産額 33,224千円
主な増減理由	屋上防水工事及び4階トイレ改修工事に伴うエルムビル施設修繕負担金などにより、23,383千円増加。	主な増減理由	除籍資料数が減少したため、16,656千円減少。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	23,381	24,689	1,308	
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	0	0	
固定資産	有形固定資産	1,195,642	1,100,337	△ 95,305		賞与引当金	23,381	24,689	1,308
	土地	400,911	343,044	△ 57,867		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	1,578,888	1,578,888	0	固定負債	442,441	444,121	1,680	
	建物減価償却累計額	△ 784,157	△ 821,595	△ 37,438		地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	442,441	444,121	1,680
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	0	0	0		長期前受金	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0		負債の部合計	465,822	468,810	2,988
	その他の固定資産	2,321,553	2,321,380	△ 173	純資産	3,051,373	2,952,907	△ 98,466	
資産の部合計	3,517,195	3,421,717	△ 95,478	純資産の部合計	3,051,373	2,952,907	△ 98,466		
				負債及び純資産の部合計	3,517,195	3,421,717	△ 95,478		

④貸借対照表の特徴的事項

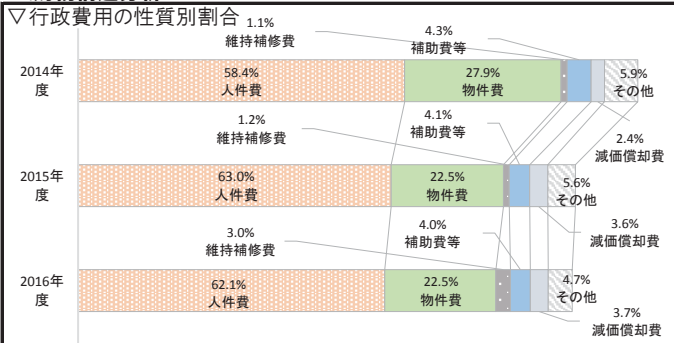
勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298) さるびあ図書館 80,530千円	決算額の主な内訳	中央図書館 1,358,295千円(専有部分建物床面積合計5,262.05㎡) さるびあ図書館 109,131千円 木曾山崎図書館 111,462千円	決算額の主な内訳	図書資産 2,246,090千円 出資金(株エルクスリー株券) 6,600千円 忠生図書館書架等備品 68,690千円
主な増減理由	さるびあ図書館の土地の一部をすみれ教室へ所管換えしたことにより、57,867千円の減少。	主な増減理由		主な増減理由	図書購入・寄贈の増加と除籍による減少に特別収入を加え、忠生図書館書架備品の減価償却により全体で173千円の減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

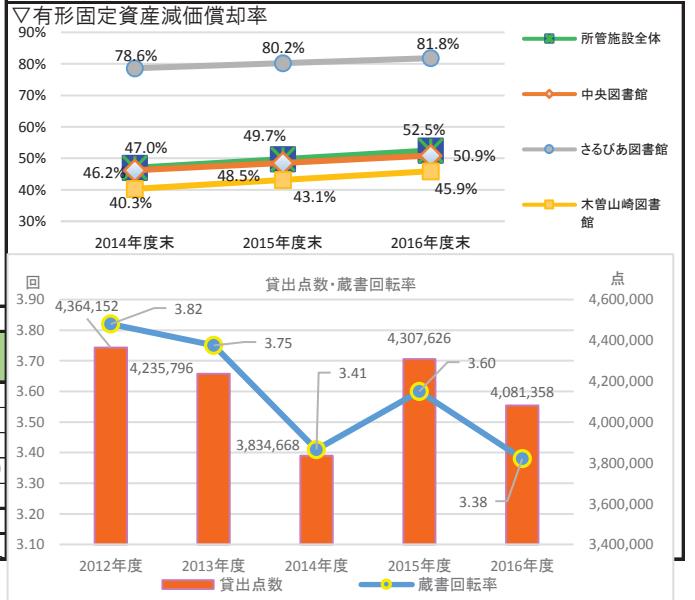
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	8,603	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	1,275,332	社会資本整備等投資活動支出	29,977	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 1,266,729	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 29,977	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 1,296,706
				一般財源充当調整額	1,296,706

V.財務構造分析



VI.個別分析



事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2016 合計	2015 合計
図書館管理事務	6.7		0.3	2.8		9.8	10.7
各庶務事務	10.4		0.9	0.2		11.5	11.9
企画運営事務	8.2			2.9		11.1	8.5
資料貸出・閲覧事業	28.7	0.9	5.7	83.6	13.5	132.4	147.0
利用援助・普及事業	3.0	0.1	0.1	11.9		15.1	10.7
2016年度 歳出目 合計	57.0	1.0	7.0	101.4	13.5	179.9	188.8
2015年度 歳出目 合計	58.0	0.0	9.0	101.6	20.2	188.8	

VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆2015年度に開館した忠生図書館の貸出点数や蔵書回転率は上昇していますが、全体では、貸出点数が2015年度より約226千点減少し、蔵書回転率も0.22ポイント下がりました。
- ◆事務事業の効率化を行い、時間外勤務の縮減などを進めた結果、人件費が2015年度より17,577千円減少しました。
- ◆図書館MARCシステム変更委託や成瀬コミュニティセンターでの予約受取機能委託などの電算システム保守運用委託料が9,277千円増加しましたが、契約先の変更による光熱水費4,160千円の減少や中央図書館監視装置賃貸借料の2,063千円の減少などにより、物件費は2015年度より2,434千円減少しました。
- ◆所管する各図書館の施設を維持するための修繕を行いました。施設の老朽化は依然進んでいます。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆町田市内の図書館は8館、予約資料受渡し施設は4か所(南町田駅前連絡所・成瀬コミュニティセンター・小山市民センター・ばお分館)となりました。今後は、各地域の特色に合った図書館利用者へのサービスを充実させる必要があります。
- ◆忠生図書館を除く各館の貸出点数の減少を踏まえ、読書普及事業の展開を検討する必要があります。
- ◆所管する施設の老朽化が依然進んでいます。「町田市公共施設等総合管理計画」に基づいて、各施設のあり方を長期的な視野で検討する必要があります。

2016年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	中央図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

I. 事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則									
	2014年度			2015年度			2016年度		施設の名称	町田市立中央図書館
	蔵書数(AV資料含む)			585,950点			578,432点		580,393点	
	建設年月日			1990年4月16日						
	予約・リクエスト件数			189,259件			201,766件		183,883件	
貸出者数			423,405人			475,896人		428,516人		
有形固定資産減価償却率			46.2%			48.5%		50.9%		

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆市立図書館の中心館として、図書館を利用していない方のニーズ等も把握し、図書館の強みを活かした活動やイベントを行うなど、図書館利用の拡大に努める必要があります。
 ◆きめ細かい読書相談や資料要求に応えることができるように、専門的なサービスの充実や各地域図書館への支援を行うことが必要です。
 ◇建設後26年が経過していることから施設の老朽化が進んでいます。利用者に安心して施設を利用してもらうためには、施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、長期的な施設の維持管理計画に基づいて、施設や設備の改修を行うことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	1,300,000	1,187,000	(AV資料を含む)
		実績	1,299,987	1,274,783	1,176,006	(2019年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	2.24	2.04	貸出点数を蔵書数で除したものの(AV資料を含む)
		実績	2.22	2.20	2.03	(2019年度)	(蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)

◆初めての試みとして、「〇〇課×図書館コラボしませんか」と全課に呼びかけて本の特集コーナーを設置し、市の施策をPRしました。
 ◆他機関・他部署と連携し、「ちびひろ」「3R推進課」「セルビア講演会」などを通じ、幅広い層に対して読書普及のための事業を行いました。
 ◆レファレンス事例をホームページに48件公開し、合計公開件数は130件となりました。また、国立国会図書館のレファレンス共同データベースに事例登録する年間データ件数が基準に達したため、国立国会図書館からお礼状を頂きました。
 ◆図書館入門講座やバックヤードツアーなどの利用者向け講座・映画会・子ども向けおはなし会・展示会・講演会などを行うことで、図書利用の拡大を積極的にはたらきかけました。また、職場体験の中学2年生3期18名・高校生2名を受け入れて、図書館の仕事を経験してもらいました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	465,727	387,682	366,873	△ 20,809	地方税	0	0	0	0
物件費	124,494	100,301	96,879	△ 3,422	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	71,392	8,598	10,110	1,512	都支支出金	0	0	1,670	1,670
維持補修費	12,028	4,768	34,790	30,022	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	61,089	54,725	52,603	△ 2,122	その他	7,133	6,207	5,683	△ 524
減価償却費	32,007	32,007	32,007	0	行政収入 小計(a)	7,133	6,207	7,353	1,146
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 760,007	△ 585,566	△ 592,015	△ 6,449
賞与・退職手当引当金繰入額	71,795	12,290	16,216	3,926	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	767,140	591,773	599,368	7,595	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 760,007	△ 585,566	△ 592,015	△ 6,449
特別費用 (g)	34,772	33,240	16,921	△ 16,319	特別収入 小計 (f)	163	4,767	17	△ 4,750
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 34,609	△ 28,473	△ 16,904	11,569	当期収支差額 (e)+(h)	△ 794,616	△ 614,039	△ 608,919	5,120

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 232,655千円 再任用職員 16,618千円 嘱託員 101,304千円 臨時職員 15,955千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 39,165千円 図書館情報システムサービス使用料 14,070千円 図書館書籍配送業務委託料 2,300千円 電算システム保守運用委託料 2,959千円など
主な増減理由	事務事業の効率化を行い、時間外勤務の縮減などを進めたことなどにより、20,809千円減少。	主な増減理由	電算システム保守運用委託料2,959千円などの増加。契約先の変更などによる光熱水費2,461千円や中央監視装置賃借料2,063千円などの減少。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	補助費等
決算額の主な内訳	エルムビル屋上防水改修工事負担金 11,043千円 中央図書館4階トイレ改修工事負担金 11,440千円 中央図書館シャッター危害防止修繕負担金 1,706千円 中央図書館6階書庫空調設備改修修繕 5,346千円など	決算額の主な内訳	エルムビル総合管理業務負担金 50,971千円 音訳・デジジ編集謝礼 744千円 対面朗読協力謝礼 392千円 ボランティア養成講座謝礼 107千円など
主な増減理由	屋上防水工事や4階トイレ改修工事によるエルムビル施設修繕負担金などにより、30,022千円増加。	主な増減理由	エルムビル総合管理業務の仕様の見直しによる1,970千円などの減少。

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2016	580,393	1,033	10	人件費・物件費・補助費は減少したが、維持補修費が増加したことにより、単位あたりコストが10円増加しました。
		2015	578,432	1,023	△ 286	
		2014	585,950	1,309		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2016	5,968	100,430	1,272	人件費・物件費・補助費は減少したが、維持補修費が増加したことにより、単位あたりコストが1,272円増加しました。
		2015	5,968	99,158	△ 29,384	
		2014	5,968	128,542		
開館日数1日あたりコスト	日	2016	300	1,997,893	25,316	人件費・物件費・補助費は減少したが、維持補修費が増加したことにより、単位あたりコストが25,316円増加しました。
		2015	300	1,972,577	△ 719,142	
		2014	285	2,691,719		

④貸借対照表

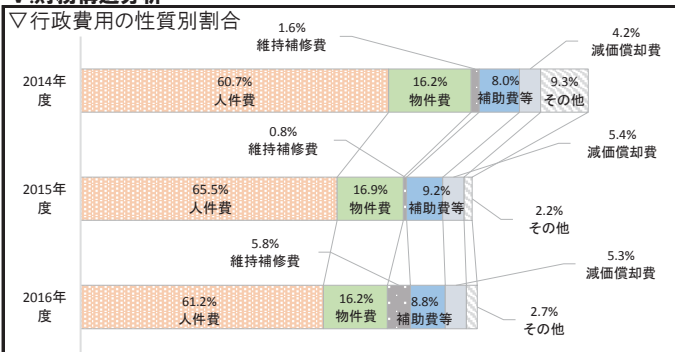
(単位:千円)

勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	12,290	12,121	△ 169
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	964,559	932,551	△ 32,008	地方債	0	0	0
	土地	262,513	262,513	0	賞与引当金	12,290	12,121	△ 169
	建物(取得価額)	1,358,295	1,358,295	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 656,249	△ 688,257	△ 32,008	固定負債	232,577	218,040	△ 14,537
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	232,577	218,040	△ 14,537
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	その他の固定資産	1,320,289	1,320,088	△ 201	負債の部合計	244,867	230,161	△ 14,706
資産の部合計	2,284,848	2,252,639	△ 32,209	純資産	2,039,981	2,022,478	△ 17,503	
				純資産の部合計	2,039,981	2,022,478	△ 17,503	
				負債及び純資産の部合計	2,284,848	2,252,639	△ 32,209	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	中央図書館 262,513千円(区分所有持分100万分の273,298)	決算額の主な内訳	中央図書館 1,358,295千円(専有部分建物床面積合計5,262.05㎡)	決算額の主な内訳	図書資産 1,313,488千円 出資金(株エルムスリー株券) 6,600千円
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が32,008千円減少。	主な増減理由	期初額から購入図書12,846千円、寄贈3,857千円、除籍△16,921千円、特別収入17千円の期中移動があり、図書資産が201千円減少。

V.財務構造分析

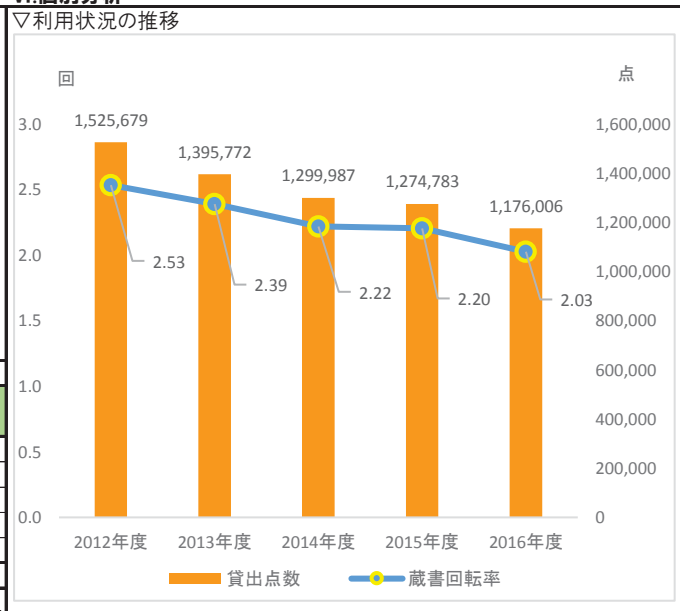


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2016 合計	2015 合計
図書館管理事務	4.5	0.2	0.2	1.0		5.7	5.7
各館庶務事務	5.8		0.8			6.6	6.7
企画運営業務	4.5			1.0		5.5	6.0
資料貸出・閲覧業務	11.2	2.9	27.7	6.9		48.7	55.5
利用援助・普及事業	2.0	0.1	6.4			8.5	4.7
2016年度 特定事業 合計	28.0	0.0	4.0	36.1	6.9	75.0	78.6
2015年度 特定事業 合計	29.0	0.0	4.0	34.7	10.9	78.6	

VI.個別分析



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆4Fトイレ改修工事や屋上防水工事などの修繕を行い、利用者が使いやすいように施設的环境整備に努めました。
- ◆図書館MARCシステム変更委託料や成瀬コミュニティセンター予約機能委託料などシステム運用保守委託料が2,959千円増加しましたが、契約先の変更などによる光熱水費2,461千円の減少や中央監視装置賃借料などの使用料が減少したため、物件費が2015年度より3,422千円減少しました。
- ◆事務事業の効率化を行い、時間外勤務の縮減などを進めたことにより、人件費が2015年度より20,809千円減少しました。
- ◆貸出点数は2015年度より約99千点減少し、蔵書回転率も0.17ポイント下がりました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆市立図書館の中心館として、図書館を利用していない方のニーズなども把握し、中央図書館の立地条件や施設規模などの強みを活かした活動やイベントを、他機関・他部署と連携して行うなど、図書館利用の拡大に努める必要があります。
- ◆きめ細かい読書相談や資料要求に応えることができるよう、専門的なサービスの充実や各地域図書館への支援を行うことが必要です。
- ◇建設後27年が経過していることから施設の老朽化が進んでいます。利用者に安心して施設を利用してもらうためには、施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、長期的な施設の維持管理計画に基づいて、施設や設備の改修を行うことが必要です。

2016年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	さるびあ図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

I. 事業概要

事業目的	市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。				
------	--	--	--	--	--

基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則					
	2014年度	2015年度	2016年度	施設の名称	町田市立さるびあ図書館	
	蔵書数	133,106点	133,324点	133,412点	建設年月日	1972年5月22日
	予約・リクエスト件数	75,253件	72,502件	66,339件		
	貸出者数	117,830人	113,963人	103,642人	有形固定資産減価償却率	2014年度 78.6% 2015年度 80.2% 2016年度 81.8%

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆貸出点数・蔵書回転率が減少傾向にあります。これを上げるために、地域住民のニーズを把握した上で魅力的な図書を選定することが必要です。
 - ◆移動図書館の利用者が減少しています。図書館が身近にない地域の方でも図書館サービスが利用できる移動図書館を更にPRすることが必要です。
 - ◆学校支援の取りまとめ館として、各学校からの読書相談や資料要求に応えられることが必要です。また、サービス利用校の拡大も必要です。
- ◇建設後40年以上が経過していることから施設の老朽化が進んでいます。引き続き施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、修繕計画に基づき、施設や設備の改修を行うことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	450,000	397,000	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	479,804点	426,947点	391,096点	(2019年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	3.33	2.94	
		実績	3.60	3.20	2.93	(2019年度)	

- 成果の説明
- ◆移動図書館で受け取る予約資料について、2016年3月から検索機やホームページからも予約が行えるようになり、利用者の利便性が向上しました。
 - ◆移動図書館車2台が43か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者へのサービスを実施しました。
 - ◆町田エコフェスタ、ゼルビア・サン・ジョルディ、シバヒロ星空観察会に移動図書館車で参加し、移動図書館のPRを行いました。
 - ◆市民ボランティアと協働で、乳幼児向け、2・3歳児向け、就学前後の児童向けなどのおはなし会を開催しました。
 - ◆小・中学校からの依頼を受け、テーマに沿った資料を選書し3,830冊の配本を行い運搬手段を持たない地域文庫と小学校にも資料を配本しました。
 - ◆職場体験の中学2年生3期6名・特別支援学級の生徒3名を受け入れて、図書館の仕事を体験してもらいました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	107,070	102,136	102,693	557	地方税	0	0	0	0
物件費	26,034	27,848	27,259	△ 589	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	18,417	7,141	7,052	△ 89	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,649	8,916	2,868	△ 6,048	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	1,560	1,636	1,636	0
補助費等	0	15	32	17	その他	343	110	89	△ 21
減価償却費	2,253	2,253	2,253	0	行政収入 小計(a)	1,903	1,746	1,725	△ 21
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 151,755	△ 146,784	△ 151,665	△ 4,881
賞与・退職手当引当金繰入額	16,652	7,362	18,285	10,923	金融収支差額(d)	0	0	0	0
行政費用 小計(b)	153,658	148,530	153,390	4,860	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 151,755	△ 146,784	△ 151,665	△ 4,881
特別費用(g)	15,675	4,636	4,543	△ 93	特別収入 小計(f)	59	39	18	△ 21
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 15,616	△ 4,597	△ 4,525	72	当期収支差額(e)+(h)	△ 167,371	△ 151,381	△ 156,190	△ 4,809

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 66,551千円 嘱託員 33,119千円 臨時職員 2,926千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 10,435千円 図書館情報システムサービス使用料 3,749千円 図書館書籍配送業務委託料 613千円 清掃業務委託料 4,536千円 など
主な増減理由		主な増減理由	
勘定科目	維持補修費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	さるびあ図書館小荷物昇降機改修工事 1,296千円 さるびあ図書館玄関前通路改修工事 986千円など	決算額の主な内訳	高圧送電線線地下地使用权 1,635千円 公衆電話ボックス本柱・支線等設置使用料 1千円
主な増減理由	大規模な改修工事を行わなかったため、6,048千円減少。	主な増減理由	

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2016	133,412	1,150	36	賞与・退職手当引当金繰入額などが増加したことにより、単位あたりコストが36円増加しました。
		2015	133,324	1,114	△ 40	
		2014	133,106	1,154		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2016	1,260	121,738	3,857	賞与・退職手当引当金繰入額などが増加したことにより、単位あたりコストが3,857円増加しました。
		2015	1,260	117,881	△ 4,070	
		2014	1,260	121,951		
開館日数1日あたりコスト	日	2016	300	511,300	△ 872	賞与・退職手当引当金繰入額などが増加しましたが、開館日数が2015年度より10日増えたことにより、単位あたりコストが872円減少しました。
		2015	290	512,172	△ 26,979	
		2014	285	539,151		

④ 貸借対照表

(単位:千円)

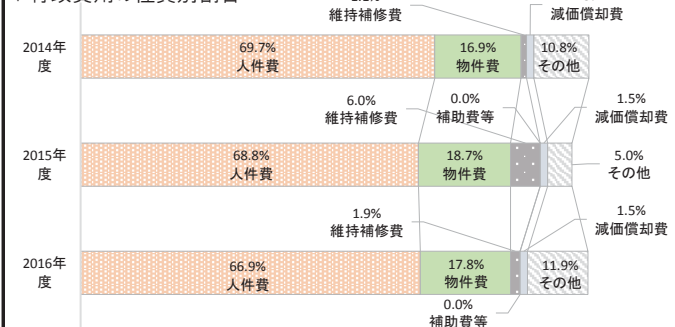
勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	2,795	3,467	672
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	166,574	106,452	△ 60,122	地方債	0	0	0
	土地	138,398	80,530	△ 57,868	賞与引当金	2,795	3,467	672
	建物(取得価額)	109,131	109,131	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 80,955	△ 83,209	△ 2,254	固定負債	52,882	62,370	9,488
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	52,882	62,370	9,488
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	その他の固定資産	218,793	218,999	206	負債の部合計	55,677	65,837	10,160
資産の部合計	385,367	325,451	△ 59,916	純資産	329,690	259,614	△ 70,076	
				純資産の部合計	329,690	259,614	△ 70,076	
				負債及び純資産の部合計	385,367	325,451	△ 59,916	

⑤ 貸借対照表の特記事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	さるびあ図書館 80,530千円	決算額の主な内訳	さるびあ図書館 109,131千円	決算額の主な内訳	図書資産 218,999千円
主な増減理由	土地の一部をすみれ教室へ所管換えしたことにより、57,868千円減少。	主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が2,254千円減少。	主な増減理由	期初額から購入図書2,887千円、寄贈1,844千円、除籍△4,543千円、特別収入18千円の期中移動があり、図書資産が206千円増加。

V 財務構造分析

▽ 行政費用の性質別割合



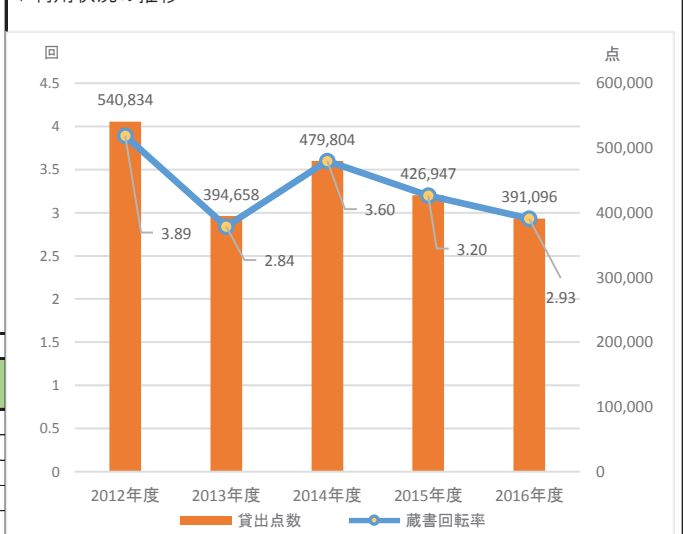
▽ 事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2016	
						合計	2015
図書館管理事務	0.5			0.4		0.9	1.1
各館庶務事務	1.3			0.1		1.4	1.3
企画運営業務	0.5			0.1		0.6	0.2
資料貸出・閲覧業務	5.6			10.6	1.2	17.4	19.9
利用援助・普及事業	0.1			0.6		0.7	0.8
2016年度 特定事業 合計	8.0	0.0	0.0	11.8	1.2	21.0	23.3
2015年度 特定事業 合計	7.0	0.0	2.0	13.8	0.5	23.3	

VI 個別分析

▽ 利用状況の推移



VII 総括

① 成果および財務の分析

- ◆ 町田ゼルビア関連行事や町田エコフェスタに移動図書館車で参加し、移動図書館のPRを行いました。
- ◆ 学校図書館を支援する事業として、学校への配本を行っています。小・中学校合わせて55校の登録校のうち27校から依頼を受けて、学校が希望する特定のテーマの資料3,830冊を貸出しました。
- ◆ 全館で218団体の登録があり、団体への貸出は、年間で17,918冊行いました。2015年度より、登録が19団体増加しました。
- ◆ 貸出点数が2015年度より約36千点減少し、蔵書回転率も0.27ポイント下がりました。

② 2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆ 貸出点数・蔵書回転率が減少傾向にあります。これを上げるために、住宅地の中の図書館という立地も視野に入れ利用者のニーズを把握した上で、魅力的な図書を選定することが必要です。
- ◆ 移動図書館の利用者が減少しています。その原因を分析し対応策を検討する必要があります。
- ◇ 建設後40年以上が経過していることから施設の老朽化が進んでいます。「町田市公共施設等総合管理計画」に基づいて、施設のあり方を長期的な視野で検討する必要があります。

2016年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴岡図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

I. 事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則										
	2014年度			2015年度			2016年度		施設の名称	町田市立鶴岡図書館	
	蔵書数			50,360点			49,906点		建設年月日		1972年2月15日
	予約・リクエスト件数			56,421件			48,764件				
	貸出者数			79,572人			69,428人		有形固定資産減価償却率	-	-

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆小規模な図書館の特長を活かした蔵書構成や滞在空間の工夫がさらに必要です。
- ◆貸出点数・蔵書回転率を上げるため、利用の多い高齢者のニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、魅力的な図書を選定することが必要です。
- ◇建設後40年以上が経過していることから、施設等の老朽化が進んでいます。引き続き施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、施設や設備の改修を行うことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	300,000	227,000	
		実績	266,726	259,097	226,252	(2019年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	5.88	4.54	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	5.29	5.14	4.53	(2019年度)	

- 成果の説明
- ◆まちだとしょかんまつり期間中のおはなし会を増やし、また地域のお祭りにあわせて実施しました。
 - ◆夏の特別おはなし会をボランティアと協働で実施しました。
 - ◆子ども向けおはなし会・乳幼児向けおはなし会・ブックトークを実施し、子どもが図書へ関心を持つきっかけづくりに取り組みました。
 - ◆職場体験の中学2年生6名・高校1年生2名を受け入れて、図書館の仕事を体験してもらいました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度	2016年度	差額	勘定科目	2014年度	2015年度	2016年度	差額
		A	B	B-A				A	B
人件費	43,921	40,491	40,832	341	地方税	0	0	0	0
物件費	10,384	15,836	15,650	△ 186	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	6,149	1,922	2,205	283	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	21	121	68	△ 53	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	156	162	163	1	その他	157	51	36	△ 15
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	157	51	36	△ 15
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 58,837	△ 60,944	△ 60,968	△ 24
賞与・退職手当引当金繰入額	4,512	4,385	4,291	△ 94	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	58,994	60,995	61,004	9	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 58,837	△ 60,944	△ 60,968	△ 24
特別費用 (g)	3,987	1,601	2,619	1,018	特別収入 小計 (f)	38	32	76	44
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 3,949	△ 1,569	△ 2,543	△ 974	当期収支差額 (e)+(h)	△ 62,786	△ 62,513	△ 63,511	△ 998

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 25,235千円 嘱託員 14,730千円 臨時職員 830千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 6,998千円 図書館情報システムサービス使用料 2,514千円 電算システム運用保守料 529千円 建物借上料 1,685千円など
主な増減理由		主な増減理由	
勘定科目		勘定科目	
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2016	49,906	1,222	11	物件費は減少しましたが、人件費が増加したことにより、単位あたりコストが11円増加しました。
		2015	50,360	1,211	40	
		2014	50,389	1,171		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2016	260	234,631	35	物件費は減少しましたが、人件費が増加したことにより、単位あたりコストが35円増加しました。
		2015	260	234,596	7,696	
		2014	260	226,900		
開館日数1日あたりコスト	日	2016	300	203,347	30	物件費は減少しましたが、人件費が増加したことにより、単位あたりコストが30円増加しました。
		2015	300	203,317	△ 10,429	
		2014	276	213,746		

④貸借対照表

(単位:千円)

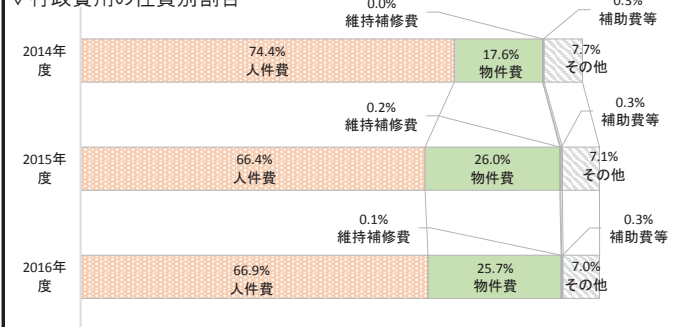
勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,199	1,315	116	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	1,199	1,315	116
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	22,694	23,650	956
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	22,694	23,650	956	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		土地	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	負債の部合計	23,893	24,965	1,072
工作物減価償却累計額		0	0	0	純資産	37,959	36,010	△ 1,949	
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産		61,852	60,975	△ 877	純資産の部合計	37,959	36,010	△ 1,949	
資産の部合計		61,852	60,975	△ 877	負債及び純資産の部合計	61,852	60,975	△ 877	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	図書資産 60,975千円	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由	期初額から購入図書1,246千円、寄贈420千円、除籍△2,619千円、特別収入76千円の期中移動があり、図書資産額が877千円減少。	主な増減理由	主な増減理由

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



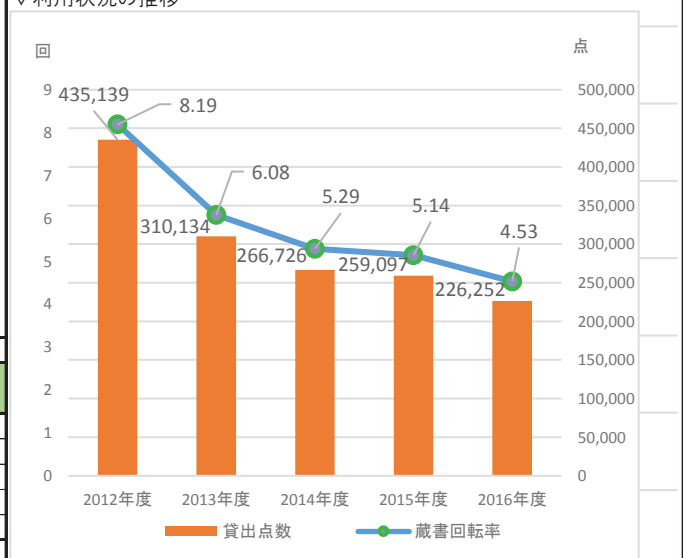
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2016年度	
						合計	2015年度
図書館管理事務	0.4					0.4	0.3
各館庶務業務						0.0	0.1
企画運営業務	1.6			0.4		2.0	0.2
資料貸出・閲覧業務	0.8			3.9	0.5	5.2	7.6
利用援助・普及事業	0.2			0.7		0.9	0.3
2016年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	5.0	0.5	8.5	8.5
2015年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	5.0	0.5	8.5	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆利用者の要望に応じて、狭いスペースの中で、新刊雑誌の館内閲覧を開始しました。
- ◆貸出点数が2015年度より約33千点減少し、蔵書回転率も0.61ポイント下がりました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆小規模な図書館の特長を活かした蔵書構成や滞在空間の工夫がさらに必要です。
- ◆貸出点数・蔵書回転率を上げるため、利用の多い高齢者のニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、魅力的な図書を選択する必要があります。
- ◆鶴川地域図書館内で連携して、鶴川駅前図書館と共同で行事を行うなど、地域活性化と利用者増に向けた試みや工夫が必要です。
- ◇建設後40年以上が経過していることから、施設等の老朽化が進んでいます。「町田市公共施設等総合管理計画」に基づいて、施設のあり方を検討する必要があります。

2016年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	金森図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

I. 事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則						
	2014年度			2015年度			2016年度
	蔵書数			132,121点			132,270点
	予約・リクエスト件数			133,082件			136,773件
	貸出者数			186,429人			220,476人
						198,736人	
		施設の名称		町田市立金森図書館			
		建設年月日		2000年7月4日			
		2014年度		2015年度		2016年度	
		-		-		-	
		有形固定資産減価償却率					

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆魅力ある蔵書を利用者に提供するために、利用が多い家族連れのニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、図書を選定することが必要です。
 ◇建築後15年が経過し、維持管理のための費用が必要になっています。普段からの適正な管理と修繕により、施設の劣化を最小限に抑えること、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えるため、営繕課と調整しながら施設管理を行っていく必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	800,000	729,000	
		実績	771,534	784,361	725,427	(2019年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	6.02	5.48	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	5.84	5.93	5.47	(2019年度)	

◆南地区に位置し、駐車場が併設されているため、大勢の家族連れの利用者が車で訪れており、地域館で最も貸出点数が多くなっています。
 ◆ボランティアと協働で子ども向け・乳幼児向けおはなし会を開催し、保護者の方も多く参加してもらうことができました。
 ◆南地域子育て相談センターとの共催で保護者を対象に「絵本の選び方・読み方」のイベントを行い、18名の参加がありました(於金森保育園)。
 ◆小学校低学年より図書館に興味を持ってもらうことを目的に、年2回のブックトークを行いました。
 ◆小学校の社会科授業の一環として図書館見学2校、146名の受け入れを行いました。また、中学2年生の職場体験3期分6名を受け入れて、図書館の仕事を体験してもらいました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	64,591	59,894	66,538	6,644	地方税	0	0	0	0
物件費	18,746	35,480	36,139	659	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	9,513	7,195	8,669	1,474	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	611	1,102	1,060	△ 42	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	4	6	2	その他	390	158	119	△ 39
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	390	158	119	△ 39
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 85,876	△ 98,661	△ 112,910	△ 14,249
賞与・退職手当引当金繰入額	2,318	2,339	9,286	6,947	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	86,266	98,819	113,029	14,210	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 85,876	△ 98,661	△ 112,910	△ 14,249
特別費用 (g)	8,362	3,677	3,501	△ 176	特別収入 小計 (f)	0	56	32	△ 24
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 8,362	△ 3,621	△ 3,469	152	当期収支差額 (e)+(h)	△ 94,238	△ 102,282	△ 116,379	△ 14,097

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 22,598千円 再任用職員 4,152千円 嘱託員 36,355千円 臨時職員 3,400千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 14,856千円 図書館情報システムサービス使用料 5,337千円 清掃業務委託料 2,891千円 図書館電算システム運用保守委託料 1,123千円など
主な増減理由	常勤職員復帰などにより、6,644千円増加。	主な増減理由	
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	ロールスクリーン修繕 850千円 空調修繕 200千円など	決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2016	132,722	852	105	人件費、物件費などが増加したことにより、単位あたりコストが105円増加しました。
		2015	132,270	747	94	
		2014	132,121	653		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2016	1,500	75,353	9,474	人件費、物件費などが増加したことにより、単位あたりコストが9,474円増加しました。
		2015	1,500	65,879	8,368	
		2014	1,500	57,511		
開館日数1日あたりコスト	日	2016	300	376,763	47,366	人件費、物件費などが増加したため、単位あたりコストが47,366円増加しました。
		2015	300	329,397	26,709	
		2014	285	302,688		

④貸借対照表

(単位:千円)

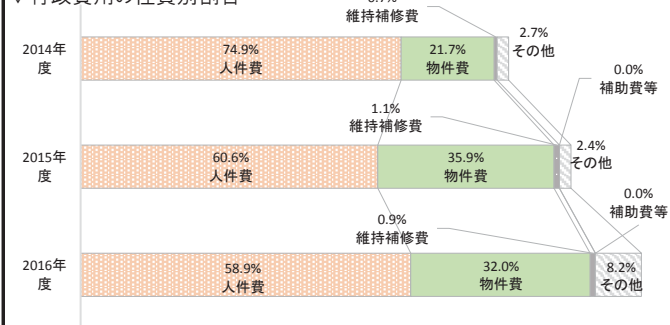
勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	786	1,177	391
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
	土地	0	0	0	賞与引当金	786	1,177	391
	建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	14,879	21,178	6,299
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	14,879	21,178	6,299
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	その他の固定資産	180,068	181,028	960	負債の部合計	15,665	22,355	6,690
資産の部合計	180,068	181,028	960	純資産	164,403	158,673	△ 5,730	
				純資産の部合計	164,403	158,673	△ 5,730	
				負債及び純資産の部合計	180,068	181,028	960	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	図書資産 181,028千円	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由	期初額から購入図書2,907千円、寄贈1,522千円、除籍△3,501千円、特別収入32千円の期中移動があり、図書資産額が960千円増加。	主な増減理由	主な増減理由

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



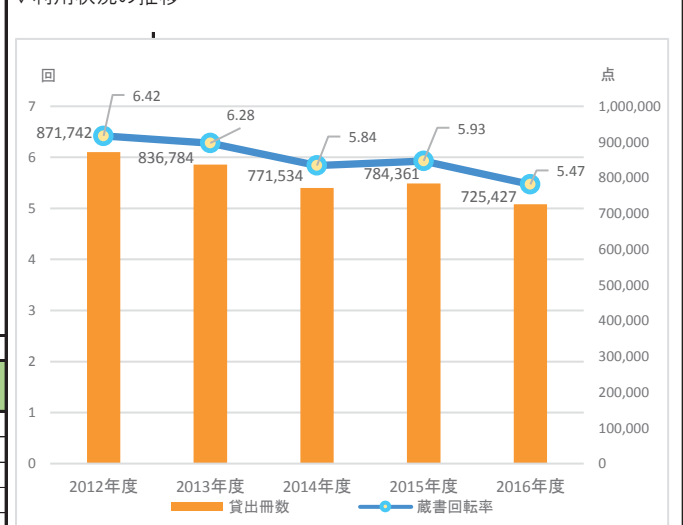
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2016 合計	2015 合計
図書館管理事務	0.3			0.4		0.7	0.6
各館庶務事務	0.7		0.1	0.1		0.9	0.8
企画運営業務	0.6			0.3		0.9	0.6
資料貸出・閲覧業務	1.4		0.9	11.2	1.8	15.3	16.8
利用援助・普及事業				1.0		1.0	1.0
2016年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	13.0	1.8	18.8	19.8
2015年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	12.9	2.9	19.8	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆南地区に位置し、駐車場が併設されているため、大勢の家族連れの利用者が車で訪れており、地域館の中で最も貸出点数が多くなっています。
- ◆読書環境改善のため、ロールスクリーンや空調機などの修繕を行いました。
- ◆貸出点数が2015年度より約59千点減少し、蔵書回転率も0.46ポイント下がりました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆魅力ある蔵書を利用者に提供するために、利用が多い家族連れのニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、図書を選定することが必要です。
- ◆近隣学校、保育園、学童保育クラブ、市関連部局などとの連携により、イベント等を開催し、来館者を増やし、地域の拠点としての役割を果たすことが課題となります。
- ◇建築後16年が経過し、維持管理のための費用が必要になっています。普段からの適正な管理と修繕により、施設の劣化を最小限に抑えること、利用者の安全を最優先に快適な読書環境を整えるため、営繕課と調整しながら施設管理を行っていく必要があります。

2016年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	忠生図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	---------	------	---------

I. 事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報を、「いつでも、どこでも、だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則								
				2014年度	2015年度	2016年度	施設の名称		町田市立忠生図書館
	蔵書数			—	77,515点	82,903点	建設年月日		2015年2月27日
	予約・リクエスト件数			—	38,960件	51,166件			
	貸出者数			—	104,606人	123,116人	有形固定資産減価償却率		
						2014年度	2015年度	2016年度	
						-	-	-	

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆利用者数の増加につなげるため、おはなし会他に、子どもセンター「ただON」などの関連部署と連携して、イベント、講演会、展示会等を開催し図書館の魅力をアピールする必要があります。
- ◆貸出点数、蔵書回転率を上げるため、幅広い分野で魅力的な図書を選定するとともに、近隣学校の児童、生徒が課題や研究のために必要とする資料を提供できるように蔵書を整えます。また、利用者のライフステージや地域性に合わせた蔵書の特集を設置し、貸出点数の増加につなげる必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	—	—	450,000	600,000	
		実績	—	430,344	520,463	(2019年度)	
蔵書回転率	回	目標	—	—	5.77	6.67	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	—	5.55	6.28	(2019年度)	

- ◆2015年5月に市内8番目の図書館として開館し、多くの利用者が来館し、貸出点数・蔵書回転率ともに目標を大幅に上回ることができました。
- ◆開館一周年記念イベントとして、おはなし会や大人も楽しめる紙芝居を開催し、忠生図書館を地域にPRし、多くの利用者が訪れました。
- ◆子どもセンター「ただON」や生涯学習センターと共催し、本の紹介や特別おはなし会を行い、子どもが図書に関心を持つきっかけをつくりました。
- ◆展示会として、生涯学習総務課との共催で「写真で見る忠生遺跡展」を開催しました。市民がボランティアとなって展示説明を行うことにより、多くの方に忠生地域の魅力を紹介することができました。
- ◆職場体験の中学2年生11名・高校生2名を受け入れて、図書館の仕事を体験してもらいました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	0	75,138	68,519	△ 6,619	地方税	0	0	0	0
物件費	0	39,941	40,325	384	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	0	13,523	14,875	1,352	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	0	0	0	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	30	9	△ 21	その他	0	180	140	△ 40
減価償却費	0	11,065	11,065	0	行政収入 小計(a)	0	180	140	△ 40
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	0	△ 165,607	△ 122,392	43,215
賞与・退職手当引当金繰入額	0	39,613	2,614	△ 36,999	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	0	165,787	122,532	△ 43,255	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	0	△ 165,607	△ 122,392	43,215
特別費用 (g)	0	142	198	56	特別収入 小計 (f)	0	33	44	11
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	△ 109	△ 154	△ 45	当期収支差額 (e)+(h)	0	△ 165,716	△ 122,546	43,170

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 34,304千円 嘱託員 31,493千円 臨時職員 2,673千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 15,715千円 図書館情報システムサービス使用料 5,646千円 忠生市民センター総合管理委託料 8,928千円など
主な増減理由	開館2年目で運営が安定したことから、常勤職員の時間外勤務などの減少により、6,619千円の減少。	主な増減理由	
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③ 単位あたりコスト分析

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点当たりコスト	点	2016	82,903	1,478	△ 201	賞与・退職手当引当金繰入額などの減少により、単位あたりコストが201円減少しました。
		2015	77,515	1,679		
		2014				
床面積1㎡当たりコスト	㎡	2016	1,266	96,787	△ 6,026	賞与・退職手当引当金繰入額などの減少により、単位あたりコストが6,026円減少しました。
		2015	1,266	102,813		
		2014				
開館日数1日当たりコスト	日	2016	297	412,566	△ 55,641	賞与・退職手当引当金繰入額などの減少したこと、開館日数が19日増えたことにより、単位あたりコストが55,641円減少しました。
		2015	278	468,207		
		2014				

④貸借対照表

(単位:千円)

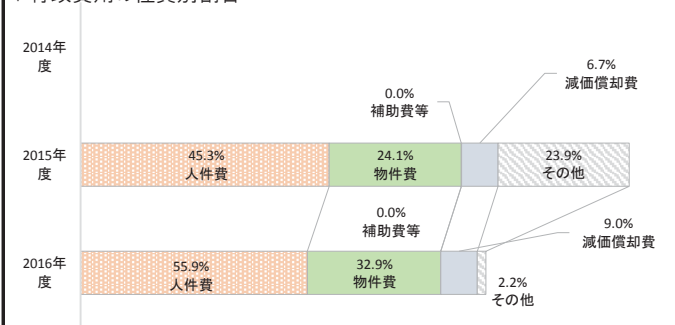
勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,800	1,787	△ 13	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	1,800	1,787	△ 13
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	34,069	32,149	△ 1,920
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	34,069	32,149	△ 1,920	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		土地	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	負債の部合計	35,869	33,936	△ 1,933
工作物減価償却累計額		0	0	0	純資産	161,581	159,244	△ 2,337	
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産		197,450	193,180	△ 4,270	純資産の部合計	161,581	159,244	△ 2,337	
資産の部合計		197,450	193,180	△ 4,270	負債及び純資産の部合計	197,450	193,180	△ 4,270	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目		勘定科目	
決算額の主な内訳	図書資産 124,490千円 忠生図書館書架等備品 68,690千円	決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由	図書資産は、購入・寄贈及び特別収入により6,796千円増加。書架等備品は減価償却により11,066千円減少。	主な増減理由		主な増減理由	

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2015年度	
						合計	合計
図書館管理事務	0.3			0.6		0.9	1.0
各館庶務事務	0.8					0.8	0.9
企画運営事務	0.4			0.3		0.7	0.6
資料貸出・閲覧業務	2.3			8.7	1.4	12.4	13.0
利用援助・利用普及	0.2			1.4		1.6	1.9
2016年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	11.0	1.4	16.4	17.4
2015年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	11.6	1.8	17.4	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆2015年度よりも、貸出点数は約90千点増加し、リクエスト件数も約12千件増加し、蔵書回転率も0.73ポイント上がっています。
- ◆閉館後20時まで、予約資料の受け取れるコーナーの認知度が上がり、貸出点数の伸びに貢献しています。
- ◆小中学校や子どもセンター「ただON」が近隣にあるため、児童生徒の利用が多く、近隣施設と連携して、子どもたちの読書普及活動に寄与しています。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆利用者数の増加につなげるため、おはなし会の他に、子どもセンター「ただON」などの関連部署と連携して、イベント、講演会、展示会等を開催し図書館の魅力をアピールする必要があります。
- ◆複合施設内の図書館なので、施設利用者にも図書館の魅力をアピールする必要があります。
- ◆近隣学校の児童生徒が、課題や研究のために必要とする資料を提供できるように、蔵書を増やす必要があります。
- ◆閉館から2年が経過したため、業務の効率化ができる部分の検討が必要です。

2016年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	木曾山崎図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

I. 事業概要

市民がライフステージに応じて必要となる知識・情報等を、「いつでも、どこでも、だれでも」自由に利用できる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則										
	2014年度			2015年度			2016年度		施設の名称	町田市立木曾山崎図書館	
	蔵書数			60,926点			60,860点		建設年月日		1976年3月25日
	予約・リクエスト件数			45,754件			39,809件				
貸出者数			89,792人			79,828人		有形固定資産減価償却率	2014年度	2015年度	2016年度
			61,022人			61,022人		40.3%	43.1%	45.9%	

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆小規模な図書館の特長を活かした蔵書構成や滞在空間の工夫が更に必要です。
 ◆貸出点数・蔵書回転率を上げるため、利用の多い高齢者のニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、魅力的な図書を選定することが必要です。
 ◇耐震補強工事は完了しましたが、引き続き施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応を徹底するとともに、施設や設備の改修を行うことが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	300,000	262,000	
		実績	218,034	287,798	261,598	(2019年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	4.92	4.30	貸出点数を蔵書数で除したものの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	3.55	4.72	4.30	(2019年度)	

◆おはなし会・科学あそび・ブックトーク・子ども向け映画会などを積極的に行って、図書館の利用を促進しました。
 ◆地域の小中学校・幼稚園と連携した施設見学の受け入れなどを行って、図書館の仕事を知ってもらいました。
 ◆木曾山崎コミュニティセンターまつりで、チャリティー古本市と子ども映画会を実施しました。
 ◆近隣の七国山小学校や山崎中学校へ出張ブックトークを行って、子どもが図書へ関心をもつきっかけを作りました。
 ◆職場体験の中学2年生3期6名・高校1年生2名を受け入れて、図書館の仕事を体験してもらいました。

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	49,880	50,252	46,591	△ 3,661	地方税	0	0	0	0
物件費	9,355	16,454	16,291	△ 163	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	6,384	2,412	2,672	260	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	159	376	28	△ 348	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	9	7	△ 2	その他	205	66	56	△ 10
減価償却費	1,152	3,177	3,177	0	行政収入 小計(a)	205	66	56	△ 10
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 63,543	△ 82,318	△ 67,342	14,976
賞与・退職手当引当金繰入額	3,202	12,116	1,304	△ 10,812	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	63,748	82,384	67,398	△ 14,986	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 63,543	△ 82,318	△ 67,342	14,976
特別費用 (g)	8,952	2,898	2,581	△ 317	特別収入 小計 (f)	48	38	4,650	4,612
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 8,904	△ 2,860	2,069	4,929	当期収支差額 (e)+(h)	△ 72,447	△ 85,178	△ 65,273	19,905

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 25,015千円 再任用職員 4,153千円 嘱託員 16,329千円 臨時職員 1,057千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム使用料 7,857千円 図書館情報システムサービス使用料 2,823千円 図書館書籍配送業務委託料 462千円 清掃業務委託料 1,152千円など
主な増減理由	常勤職員1人が再任用職員に変更となつたため3,661千円減少。	主な増減理由	
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2016	60,851	1,108	△ 244	人件費と賞与・退職手当引当金繰入額などが減少したため、単位あたりコストが244円減少しました。
		2015	60,926	1,352	313	
		2014	61,352	1,039		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2016	321	209,963	△ 46,685	人件費と賞与・退職手当引当金繰入額などが減少したため、単位あたりコストが46,685円減少しました。
		2015	321	256,648	58,056	
		2014	321	198,592		
開館日数1日あたりコスト	日	2016	300	224,660	△ 49,953	人件費と賞与・退職手当引当金繰入額などが減少したため、単位あたりコストが49,953円減少しました。
		2015	300	274,613	△ 147,559	
		2014	151	422,172		

④貸借対照表

(単位:千円)

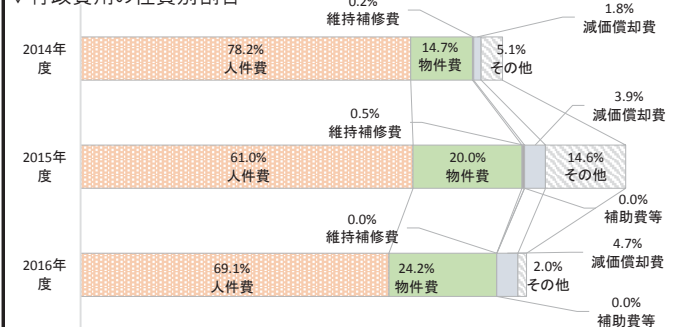
勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,591	1,304	△ 287	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	64,509	61,332	△ 3,177	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	1,591	1,304	△ 287
		建物(取得価額)	111,462	111,462	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	△ 46,953	△ 50,130	△ 3,177	固定負債	30,101	23,449	△ 6,652
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	30,101	23,449	△ 6,652	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		土地	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	負債の部合計	31,692	24,753	△ 6,939
工作物減価償却累計額		0	0	0	純資産	114,490	118,140	3,650	
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
その他の固定資産	81,673	81,561	△ 112	純資産の部合計	114,490	118,140	3,650		
資産の部合計	146,182	142,893	△ 3,289	負債及び純資産の部合計	146,182	142,893	△ 3,289		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	
決算額の主な内訳	木曾山崎図書館 111,462千円	決算額の主な内訳	図書資産 81,561千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が3,177千円減少。	主な増減理由	期初額から購入図書資産額1,676千円、寄贈図書資産額791千円、除籍△2,581千円、特別収入2千円の期中移動があり、図書資産額は112千円減少。	主な増減理由	

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

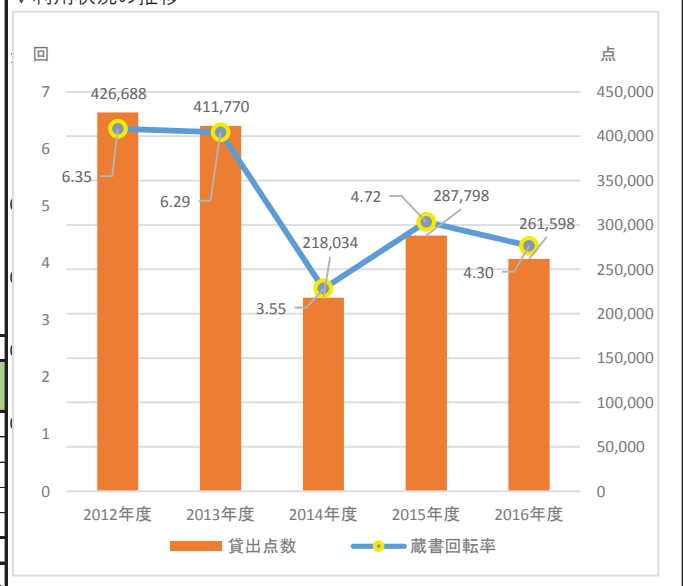


▽事業に関わる人員

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2016年度		2015年度	
						合計	合計	合計	合計
図書館管理事務	0.2		0.1	0.2		0.5	0.5	0.5	0.5
各館庶務事務	0.4					0.4	0.5	0.4	0.5
企画運営事務	0.1					0.1	0.3	0.1	0.3
資料貸出・閲覧事業	2.2		0.9	5.0	0.5	8.6	8.8	8.6	8.8
利用援助・普及事業	0.1			0.7		0.8	0.7	0.8	0.7
2016年度 特定事業 合計	3.0	0.0	1.0	5.9	0.5	10.4	10.8	10.4	10.8
2015年度 特定事業 合計	4.0	0.0	0.0	5.3	1.5	10.8		10.8	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆木曾山崎図書館の周辺には、町田山崎団地と町田木曾住宅があります。高齢者の利用が多い図書館です。
- ◆貸出点数が約26千点減少し、蔵書回転率も0.42ポイント下がりました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆小規模な図書館の特長を活かした蔵書構成や滞在空間の工夫が更に必要です。
- ◆貸出点数・蔵書回転率を上げるため、利用の多い高齢者のニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、魅力的な図書を選定する必要があります。
- ◇施設や設備の点検結果を踏まえた迅速な修繕対応が必要です。

2016年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	堺図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	--------	------	---------

I.事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則							
		2014年度	2015年度	2016年度	施設の名称	町田市立堺図書館		
	蔵書数	74,629点	73,195点	73,280点	建設年月日	1983年9月25日		
	予約・リクエスト件数	30,210件	31,145件	28,621件		2014年度	2015年度	2016年度
	貸出者数	47,494人	51,192人	46,328人	有形固定資産減価償却率	-	-	-

II.2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆読書相談や資料要求に応えるとともに、移動図書館の各サービスステーションの利用状況に合わせた図書を選ぶことが必要です。
 - ◆貸出冊数・蔵書回転率を上げるために、地域住民のニーズを把握した上で、魅力的な図書を選定することが必要です。
 - ◆複合施設内の図書館であるという利点を活かしたイベント等を企画し、地域へ図書館の魅力をアピールする必要があります。
- ◇堺市民センターと連携し、適切な修繕等を実施し施設の維持を図る必要があります。

III.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	250,000	212,000	
		実績	226,985	227,841	208,929	(2019年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	3.38	2.86	貸出点数を蔵書数で除したものの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	3.04	3.11	2.85	(2019年度)	

- 成果の説明
- ◆移動図書館で受け取るリクエスト資料について、2016年3月から利用者用検索機やホームページからも予約できるようになり、利用者の利便性が向上しました。
 - ◆移動図書館車1台で22か所のサービスステーションを2週間ごとに巡回して、図書館が近隣にない地域の利用者の利便性を高めました。
 - ◆乳幼児向けおはなし会・映画会を実施し、子どもが図書館へ関心を持つきっかけづくりに貢献できました。
 - ◆職場体験の中学2年生6名と高校1年生2名・2年生1名、小学6年生5名を受け入れて、図書館の仕事を経験してもらいました。
 - ◆相原小学校の図書館見学を1回受け入れ、小学生に図書館を身近に感じてもらい、移動図書館の存在も知ってもらいました。

IV.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	51,945	52,130	57,443	5,313	地方税	0	0	0	0
物件費	10,894	17,457	17,454	△ 3	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	7,773	3,518	3,991	473	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	894	564	450	△ 114	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	6	9	3	その他	212	44	40	△ 4
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	212	44	40	△ 4
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 70,031	△ 74,526	△ 88,334	△ 13,808
賞与・退職手当引当金繰入額	6,510	4,413	13,018	8,605	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	70,243	74,570	88,374	13,804	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 70,031	△ 74,526	△ 88,334	△ 13,808
特別費用 (g)	5,239	3,137	2,530	△ 607	特別収入 小計 (f)	38	111	17	△ 94
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 5,201	△ 3,026	△ 2,513	513	当期収支差額 (e)+(h)	△ 75,232	△ 77,552	△ 90,847	△ 13,295

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 33,418千円 再任用職員 4,153千円 嘱託員 19,823千円など	決算額の主な内訳	図書館書籍配送業務委託料 462千円 ICタグカラーバーコードシステム使用料 7,857千円 図書館情報システムサービス使用料 2,823千円 堺市民センター物件費 4,269千円など
主な増減理由	再任用職員1人が常勤職員に変更となったため、5,313千円増加。	主な増減理由	

勘定科目	決算額の主な内訳	勘定科目	決算額の主な内訳
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2016	73,280	1,206	187	人件費などの増加により、単位あたりコストが187円増加しました。
		2015	73,195	1,019	78	
		2014	74,629	941		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2016	430	205,521	32,102	人件費などの増加により、単位あたりコストが32,102円増加しました。
		2015	430	173,419	10,063	
		2014	430	163,356		
開館日数1日あたりコスト	日	2016	300	294,580	46,013	人件費などの増加により、単位あたりコストが46,013円増加しました。
		2015	300	248,567	△ 7,794	
		2014	274	256,361		

④貸借対照表

(単位:千円)

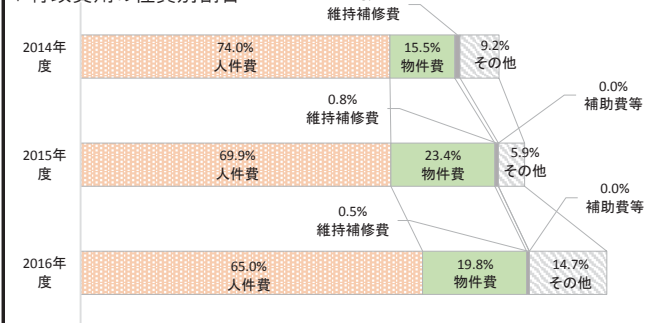
勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,201	1,741	540	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	1,201	1,741	540
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	22,718	31,319	8,601
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	22,718	31,319	8,601	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		土地	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	負債の部合計	23,919	33,060	9,141
工作物減価償却累計額		0	0	0	純資産	108,715	99,274	△ 9,441	
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
	その他の固定資産	132,634	132,334	△ 300	純資産の部合計	108,715	99,274	△ 9,441	
	資産の部合計	132,634	132,334	△ 300	負債及び純資産の部合計	132,634	132,334	△ 300	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	図書資産 132,334千円	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由	期初額から購入図書1,641千円、寄贈572千円、除籍△2,530千円、特別収入17千円の期中移動があり、図書資産額が300千円減少。	主な増減理由	主な増減理由

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



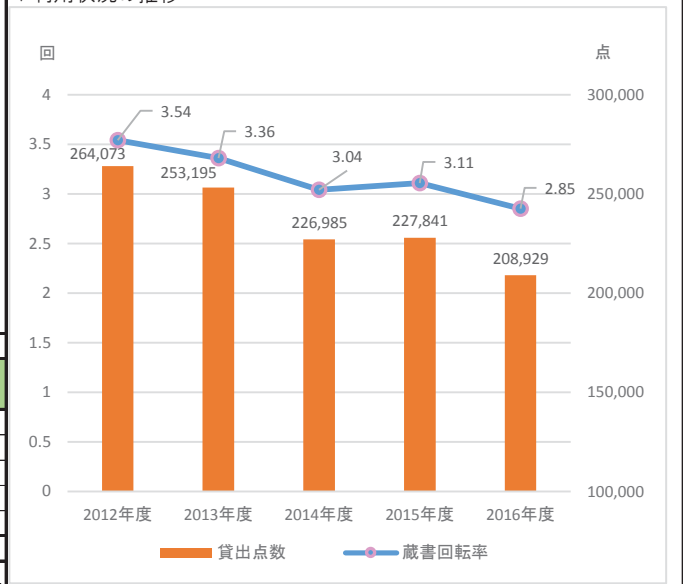
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2016	
						合計	2015
図書館管理事務	0.3			0.2		0.5	0.4
各館庶務事務	0.8					0.8	0.6
企画運営業務	0.2			0.1		0.3	0.3
資料貸出・閲覧業務	2.6		1.0	6.4		10.0	10.5
利用援助・普及事業	0.1			0.3		0.4	0.2
2016年度 特定事業 合計	4.0	0.0	1.0	7.0	0.0	12.0	12.0
2015年度 特定事業 合計	3.0	0.0	2.0	7.0	0.0	12.0	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆職場体験に中学生・高校生だけでなく、地域の小学生も受け入れを行いました。
- ◆文学館の八木重吉展の期間に合わせて、地元相原の詩人である八木重吉の特集コーナーを設置しました。
- ◆貸出点数が2015年度より約19千点減少し、蔵書回転率も0.26ポイント下がりました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆貸出冊数・蔵書回転率を上げるために、地域住民のニーズを把握した上で、魅力的な図書を選定することが必要です。
- ◆複合施設内の図書館であるという利点を活かしたイベント等を企画し、地域へ図書館の魅力をアピールする必要があります。
- ◆移動図書館の利用者が減少しています。その分析を行い、対応策を検討する必要があります。
- ◇堺市民センターと連携し、適切な修繕等を実施し施設の維持を図る必要があります。

2016年度 事業別行政評価シート

部名	生涯学習部	主管課名	図書館
----	-------	------	-----

歳出目名	図書館費	特定事業名	鶴川駅前図書館事業	事業類型	2:施設運営型
------	------	-------	-----------	------	---------

I.事業概要

市民がライフステージに応じ必要となる知識・情報等を、「いつでも・どこでも・だれでも」自由に手に入れることができる環境を整備して、市民の知的で心豊かな生活の実現に寄与します。

基本情報	根拠法令等 図書館法、町田市立図書館設置条例、町田市立図書館運営規則									
	2014年度			2015年度			2016年度		施設の名称	町田市立鶴川駅前図書館
	蔵書数			88,248点			91,448点		95,379点	
	建設年月日			2012年8月31日						
	予約・リクエスト件数			86,141件			109,019件			102,956件
貸出者数			165,695人			199,472人			184,037人	
有形固定資産減価償却率			-			-			-	

II.2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆駅前立地する図書館として、利用が多い通勤・通学者のニーズに応えるなど利用者の動向を見ながら、図書を選定することが必要です。
- ◆ホールや会議室を持つ複合施設内の図書館として、施設内で行われる事業と連携したイベントを行い、図書館を利用していない層に対して図書館の魅力をアピールする必要があります。
- ◆地域に必要とされる里山や身近な自然に関する資料を充実させる必要があります。

III.事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
貸出点数	点	目標	-	-	620,000	600,000	
		実績	571,598	616,455	571,587	(2019年度)	
蔵書回転率	回	目標	-	-	6.74	6.00	貸出点数を蔵書数で除したもの (蔵書1点につき年間何回貸出されたかを示す数値)
		実績	6.48	6.74	5.99	(2019年度)	

- ◆図書館独自企画の特集39回と合わせ、ポプリホール、生涯学習センターなど他部門との連携特集も14回(25種)行いました。また、大阪市立図書館とのコラボ企画として、中央図書館とともにセレッソ大阪の紹介を行いました。
- ◆職場体験では、中学生8名と高校生3名を受け入れました。また、定期的なおはなし会の他に、夏休み・春休みスペシャルおはなし会やとしよかんまつりを開催し、図書館のPRをしました。
- ◆川崎市立も含めた地域の小学校の図書館見学を2回と保育園見学を1回受け入れ、図書館利用について理解してもらうことができました。

IV.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	88,321	73,200	73,857	657	地方税	0	0	0	0
物件費	32,700	47,635	48,523	888	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	26,515	20,505	22,294	1,789	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	37	4	△ 33	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	2,466	39	39	0	その他	381	122	89	△ 33
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	381	122	89	△ 33
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 127,890	△ 122,508	△ 126,288	△ 3,780
賞与・退職手当引当金繰入額	4,784	1,719	3,954	2,235	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	128,271	122,630	126,377	3,747	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 127,890	△ 122,508	△ 126,288	△ 3,780
特別費用 (g)	672	547	331	△ 216	特別収入 小計 (f)	62	1,367	16	△ 1,351
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 610	820	△ 315	△ 1,135	当期収支差額 (e)+(h)	△ 128,500	△ 121,688	△ 126,603	△ 4,915

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	物件費
決算額の主な内訳	常勤職員 34,108千円 再任用職員 4,912千円 嘱託員 32,584千円 臨時職員 2,203千円など	決算額の主な内訳	ICタグカラーバーコードシステム利用料 15,715千円 図書館情報システムサービス利用料 5,646千円 図書館書籍配送業務委託料 923千円 総合管理業務委託料 19,718千円など 総合管理業務委託料1,044千円の増加など。
主な増減理由		主な増減理由	
勘定科目		勘定科目	
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
蔵書数1点あたりコスト	点	2016	95,379	1,325	△ 16	行政費用は増加しましたが、蔵書数が増加したことにより、単位あたりコストが16円減少しました。
		2015	91,448	1,341	△ 113	
		2014	88,248	1,454		
床面積1㎡あたりコスト	㎡	2016	1,344	94,031	2,788	賞与・退職手当引当金繰入額や物件費などが増加したことにより、単位あたりコストが2,788円増加しました。
		2015	1,344	91,243	△ 4,197	
		2014	1,344	95,440		
開館日数1日あたりコスト	日	2016	300	421,257	12,490	賞与・退職手当引当金繰入額や物件費などが増加したことにより、単位あたりコストが12,490円増加しました。
		2015	300	408,767	△ 61,090	
		2014	273	469,857		

④貸借対照表

(単位:千円)

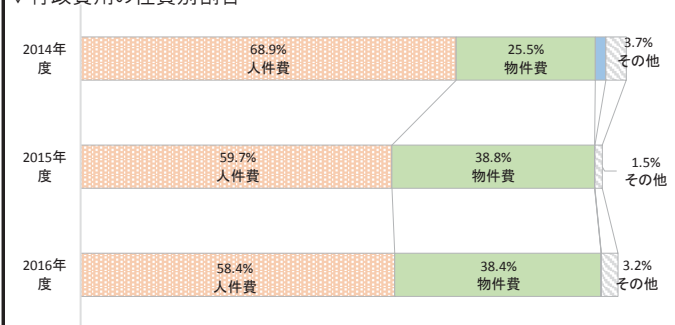
勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	1,719	1,777	58	
	不納欠損引当金	0	0	0					
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	地方債	0	0	0
		土地	0	0	0	賞与引当金	1,719	1,777	58
		建物(取得価額)	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物減価償却累計額	0	0	0	固定負債	32,520	31,966	△ 554
		工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	32,520	31,966	△ 554	
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
		土地	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	負債の部合計	34,239	33,743	△ 496
工作物減価償却累計額		0	0	0	純資産	94,557	99,472	4,915	
無形固定資産		0	0	0					
建設仮勘定	0	0	0						
	その他の固定資産	128,796	133,215	4,419	純資産の部合計	94,557	99,472	4,915	
	資産の部合計	128,796	133,215	4,419	負債及び純資産の部合計	128,796	133,215	4,419	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	図書資産 133,215千円	決算額の主な内訳	決算額の主な内訳
主な増減理由	期初額から購入図書2,848千円、寄贈1,886千円、除籍△331千円、特別収入16千円の期中移動があり、図書資産額が4,419千円増加しました。	主な増減理由	主な増減理由

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



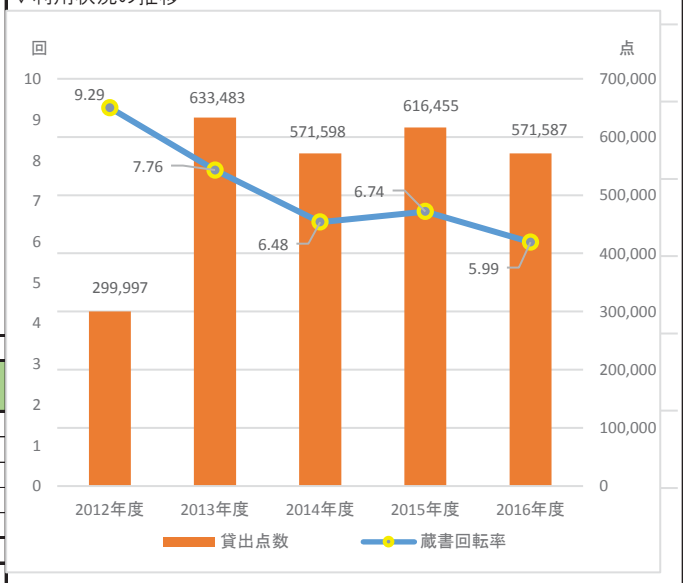
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2016年度	
						合計	2015年度
図書館管理事務	0.2					0.2	0.6
各館庶務業務	0.6					0.6	0.4
企画運営業務	0.4			0.6		1.0	0.3
資料貸出・閲覧業務	2.5	0.9		10.1	1.2	14.7	16.3
利用援助・普及事業	0.3	0.1		0.8		1.2	1.0
2016年度 特定事業 合計	4.0	1.0	0.0	11.5	1.2	17.7	18.6
2015年度 特定事業 合計	5.0	0.0	0.0	11.3	2.3	18.6	

VI.個別分析

▽利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆閉館後20時まで、予約資料の受け取れるコーナーの認知度が上がり、貸出点数の伸びに貢献しています。
- ◆貸出点数が2015年度より約45千点減少し、また蔵書回転率は、蔵書数が約4千点増加したこともあり、0.75ポイント下がりました。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆鶴川地域の中規模図書館という位置や駅前図書館としての立地を活かして、地域住民の需要と通勤・通学者の動向を探りながら、より魅力的な蔵書構成にすることが必要です。
- ◆複合施設内の図書館として、他部署や他機関と連携したイベントを行うことで、より一層図書館を利用してもらえるような取り組みが必要です。
- ◆鶴川地域図書館内で連携して、鶴川図書館と共同で行事を行うなど、地域活性化と利用者増に向けた試みや工夫が必要です。

2016年度 課別行政評価シート

部名	生涯学習部	課名	図書館	歳出目名	文学館費
				事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)

I. 組織概要

組織の使命 町田市にゆかりの文学者の著作、原稿、愛用品その他の資料及び市民の文学的著作等を収集・保存し、展示や講座・講演会などを通して文学の魅力を市民に発信し、文学に関する調査研究及び知識の普及活動を行うとともに、それを支援することにより市民が文学にふれあえる機会をつくりま

所管の業務 ◆文学資料の収集、保存及び展示に関する事 ◆文学館資料及び図書館資料の館内閲覧及び館外貸出しに関する事 ◆文学に関する調査研究に関する事 ◆講演会、講座、映画会等の開催に関する事 ◆市民の文学に関する活動の援助に関する事 ◆文学に関する広報活動に関する事 ◆文学に関する出版物等の作成及び販売に関する事 ◆文学資料の寄贈及び寄託に関する事 ◆図書館その他の教育機関との相互協力に関する事 ◆文学館の施設及び設備の利用及び維持管理に関する事 ◆町田市民文学館運営協議会に関する事

基本情報	根拠法令等				施設の名称	町田市民文学館ことばらんど		
	利用料金収入 (単位:千円)	2014年度	2015年度	2016年度	建設年月日	2006年6月1日		
	受益者負担比率	2.0%	1.5%	1.6%		2014年度	2015年度	2016年度
					有形固定資産減価償却率	16.1%	18.1%	20.1%

II. 2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆2013年度をピークに来館者数が減少しているため、市内外へ文学館をアピールするため効果的に情報発信をする必要があります。
- ◆会議室の稼働率が2014年度と比較して上昇していることから、会議室の利用者のニーズを把握し展示の閲覧や学習事業への参加を促すための検討が必要です。
- ◆町田市民文学館運営協議会の審議内容を踏まえ、文学館の事業や施設のあり方について検討する必要があります。
- ◆閉館後9年が経過し、老朽化による施設設備の故障等が発生しており、来館者の利用環境を整えるため計画的に修繕することが必要です。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2014年度	2015年度	2016年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
展覧会観覧者数	人	目標	(25,000)	(25,000)	(25,000)	25,000	原則年4回開催している展覧会の観覧者数
		実績	22,259	19,796	30,469	(2018年度)	
来館者数	人	目標	(65,000)	(65,000)	(66,000)	66,000	展覧会の閲覧、会議室の利用、図書資料の閲覧・貸出、イベントの参加等の来館者数。
		実績	63,788	57,712	69,665	(2016年度)	

成果の説明 ◆2016年度は、外部の有識者の意見を取り入れた展覧会やエンターテインメントの要素を取り入れた展覧会を開催しました。特に夏の「妖怪がいた！」展の観覧者数は16,604人を記録し、2016年度の展覧会観覧者総数は開館以来最高の30,469人となりました。
◆著名人を招いたイベント等開館10周年記念事業を開催したことにより、文学館の活動を市内外に広くアピールできました。
◆文学館まつりを市民、町内会、サークルなどと連携して実施したことにより、参加者数が2015年度の約3倍となり、地域の賑わいを創出できました。
◆展覧会観覧者や文学館まつり参加者の増加等により、文学館の来館者数が69,665人となり、目標を達成しました。
◆2015年度に発足した第3期町田市民文学館運営協議会が2016年度にかけて9回の審議を行い、2017年3月に「今後10年の町田市民文学館のあり方について」の答申をまとめました。

IV. 財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度	2015年度 A	2016年度 B	差額 B-A
人件費	79,370	83,446	83,151	△ 295	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	3,065	6,756	5,642	△ 1,114	保険料	0	0	0	0
物件費	35,514	38,348	38,283	△ 65	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	18,260	17,092	18,439	1,347	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	461	1,124	1,826	702	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	2,847	2,143	2,350	207
補助費等	2,571	2,179	2,730	551	その他	1,300	1,153	1,498	345
減価償却費	13,423	13,423	13,423	0	行政収入 小計(a)	4,147	3,296	3,848	552
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 135,937	△ 144,193	△ 143,087	1,106
賞与・退職手当引当金繰入額	8,745	8,969	7,522	△ 1,447	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	140,084	147,489	146,935	△ 554	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 135,937	△ 144,193	△ 143,087	1,106
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 135,937	△ 144,193	△ 143,087	1,106

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	常勤職員 57,578千円 再任用職員 3,756千円 嘱託員 17,383千円 臨時職員 4,119千円	決算額の主な内訳	消防設備修繕 579千円 非常用照明器具バッテリー交換等電気設備修繕 377千円 ホワイボード張替修繕 362千円 機械室雑排水ポンプ交換修繕 179千円など
主な増減理由	2015年度に実施した市民参加型事業仕分けや運営協議会立ち上げ等に伴う事務量が減少したことにより、時間外手当1,114千円減少。	主な増減理由	施設設備の故障の増加等により、修繕料702千円増加。
勘定科目	物件費	勘定科目	補助費等
決算額の主な内訳	光熱水費 6,850千円 施設貸出・管理業務委託 4,327千円 清掃業務委託 3,045千円 燻蒸及び害虫防除等業務委託 1,577千円など	決算額の主な内訳	展示会協力謝礼 1,445千円 講師謝礼 1,030千円 保険料 140千円 原稿執筆謝礼 95千円など
主な増減理由	燻蒸及び害虫防除等を行ったことにより委託料1,347千円増加。この燻蒸等を行うため資料購入を減らしたことにより備品購入費1,406千円減少。	主な増減理由	開館10周年事業を行ったこと等により展示会協力謝礼831千円増加。開館10周年事業を行うために定例事業を縮小したことにより講師謝礼289千円減少。

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
町田市民文学館来館者数1人あたりコスト	人	2016	69,665	2,109	△ 447	来館者数の増加等により、来館者1人あたりのコストは447円減の2,109円となりました。
		2015	57,712	2,556	360	
		2014	63,788	2,196		
開館日数1日あたりコスト	日	2016	294	499,779	13,017	行政費用は若干減少したものの、燻蒸及び害虫防除に伴う休館により開館日数が減少したため、開館日数1日あたりのコストは13,017円増の499,779円となりました。
		2015	303	486,762	22,908	
		2014	302	463,854		

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2015年度末 A	2016年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	2,553	2,721	168
	不納欠損引当金	0	0	0				
	その他の流動資産	0	0	0	還付未済金	0	0	0
固定資産	有形固定資産	771,254	757,831	△ 13,423	地方債	0	0	0
	土地	220,902	220,902	0	賞与引当金	2,553	2,721	168
	建物(取得価額)	671,161	671,161	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物減価償却累計額	△ 120,809	△ 134,232	△ 13,423	固定負債	48,320	48,939	619
	工作物(取得価額)	0	0	0	地方債	0	0	0
	工作物減価償却累計額	0	0	0	退職手当引当金	48,320	48,939	619
	無形固定資産	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0
	建設仮勘定	0	0	0	長期前受金	0	0	0
	その他の固定資産	0	0	0	負債の部合計	50,873	51,660	787
資産の部合計	771,254	757,831	△ 13,423	純資産	720,381	706,171	△ 14,210	
				純資産の部合計	720,381	706,171	△ 14,210	
				負債及び純資産の部合計	771,254	757,831	△ 13,423	

⑤貸借対照表の特征的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	勘定科目	建物(事業用資産)	勘定科目	
決算額の主な内訳	町田市文学館ことばらんど 220,902千円	決算額の主な内訳	町田市文学館ことばらんど 671,161千円	決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	所管する建物の減価償却により事業用資産が13,423千円減少。	主な増減理由	

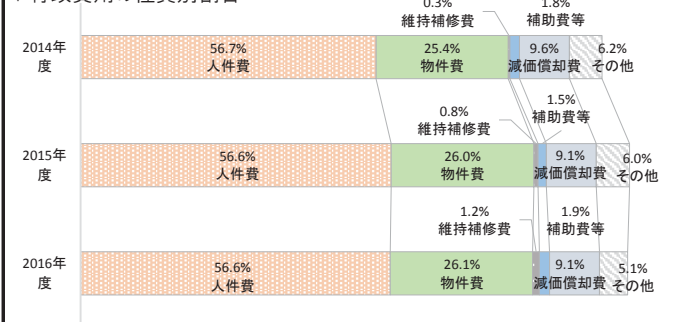
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	3,848	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	132,726	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	0
行政サービス活動収支差額(a)	△ 128,878	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	0
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 128,878
				一般財源充当調整額	128,878

V.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



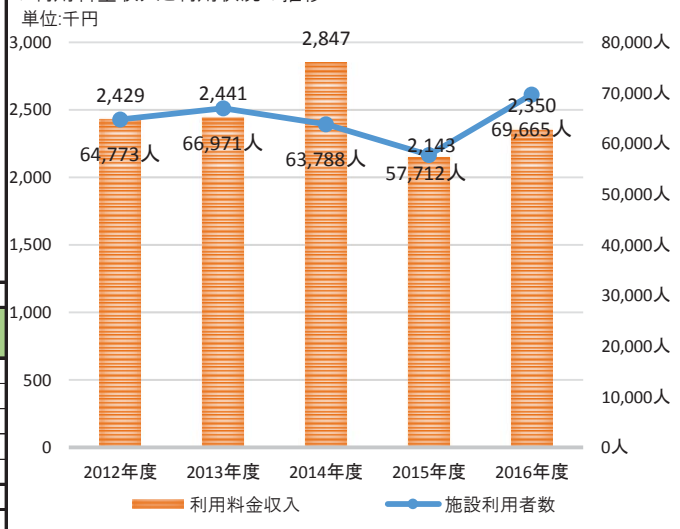
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用		嘱託	臨時	2016 合計	2015 合計
		フルタイム	短時間				
管理事務	3.1		0.3			3.4	3.5
展示事業	1.8		1.5	1.0		4.3	4.6
学習事業	0.4		1.9	0.6		2.9	3.0
資料収集事業	0.7		1.0	2.5	0.4	4.6	2.6
資料貸出・閲覧事業						0.0	1.7
2016年度 歳出目 合計	6.0	0.0	1.0	6.2	2.0	15.2	15.4
2015年度 歳出目 合計	6.0	0.0	1.0	6.2	2.2	15.4	

VI.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆開館10周年事業を行ったことや、外部の有識者の意見を取り入れた企画展やエンターテインメント的要素を取り入れた企画展を開催するなど、見て楽しい展示の可能性を模索した取り組みにより、来館者数は2015年度に比べ11,953人増加しました。
- ◆燻蒸及び害虫防除等を行うために6日間休館したことにより、会議室利用者数は2015年度に比べ820人減少しました。
- ◆秋の有料企画展の観覧者数が2015年度に比べ増加し、展示会観覧料が増加したことにより、利用料金収入は2015年度に比べ207千円増加しました。
- ◆行政費用の性質別割合では維持補修費の割合が、2016年度は2015年度に比べ0.4ポイント、2014年度に比べ0.9ポイント上昇しています。
- ◆事業に関わる人員では資料貸出・閲覧事業の予算を資料収集事業に一本化したため、2016年度の資料貸出・閲覧事業の人員は0人となっています。

②2016年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆2016年度は来館者数が目標を達成したものの、今後も継続的に来館者数を増やしていくために、魅力的な展示会の開催や文学館を市内外にアピールするための効果的な情報発信を行う必要があります。
- ◆会議室は2017年度に利用条件の緩和や料金改定を行うことから、施設利用者数の動向を注視する必要があります。
- ◇開館後10年が経過し、老朽化による施設設備の故障等が発生しており、来館者の利用環境を整えるため計画的に修繕することが必要です。